新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

平成30年度

公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

平成30年度

公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

埋蔵文化財は、新潟県はもとよりわが国の歴史や文化を正しく理解するために欠くことのできないものであり、かつ将来の文化の発展向上のために適切に保存・活用していくべき貴重な文化遺産です。

当事業団は、平成４（1992）年に新潟県が出資して設立したもので、組織の中心的な事業である発掘調査及び整理・報告書刊行のほか、埋蔵文化財保護に関する普及啓発・資料管理などに努めています。平成 26 年度には公益財団法人として再スタートを切り、現在に至っています。本書は、平成 30（2018）年度に新潟県から委託を受けて実施した事業の概要や成果などをまとめたものです。

発掘調査は国土交通省事業関連の６遺跡、25,726m^2 を実施しました。

このうち村上市上野（かみの）遺跡（朝日温海道路）では、縄文時代後期の集落から大量の土器や石器が出土しました（巻頭写真）。また、柏崎市丘江（おかえ）遺跡（国道８号柏崎バイパス）では中世（鎌倉時代から安土桃山時代）の水田を調査し、その下層では弥生時代後期の竪穴建物を検出し、別地点では中世の集落跡を調査しました。南魚沼市六日町藤塚遺跡と坂之上（さかのうえ）遺跡（いずれも国道 17 号六日町バイパス）では、古墳時代中期から後期の集落などでは、土石流堆積物に覆われて周堤帯が遺存した竪穴建物（巻頭写真）、壁立ち構造と考えられる建物跡、土器を集積した祭祀跡などを調査しました。魚沼市工田（たくみだ）遺跡（国道 17 号浦佐バイパス）では中世を中心とする水田を調査しています。整理作業は阿賀野市土橋北（どばしきた）遺跡・山口遺跡・石船戸東（いしふなとひがし）遺跡、南魚沼市余川中道（よかわなかみち）遺跡の４遺跡について行いました。これらの情報は、年４回刊行の広報紙『埋文にいがた』やホームページで随時公表したほか、３遺跡で現地説明会を開催し、延べ 305 人の参加者がありました。

普及啓発事業関係では、「火焔型土器－縄文の息吹－」「丸木舟の考古学」の年２回の企画展、巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡と火焔型土器－」、遺跡調査報告会・シンポジウム「白河荘（しらかわのしょう）の考古学」とそれに合わせた「発掘！新潟の遺跡 2018 展」、新潟県埋蔵文化財センター講演会などを実施し、多くの方々に参加していただきました。また、火起こしや勾玉作りなどの体験を取り入れた校外学習支援や親子考古学教室、少年少女考古学教室では、児童・生徒に対して埋蔵文化財の価値や保護の大切さ、古の人々の生活や知恵を学ぶ楽しさを知る機会を提供できたものと考えています。

最後に、日ごろから当事業団の事業に御理解・御協力をいただいている関係各位に対し厚くお礼申し上げますとともに、今後のさらなる事業推進に向け一層の御支援をお願いいたします。

令和元年９月

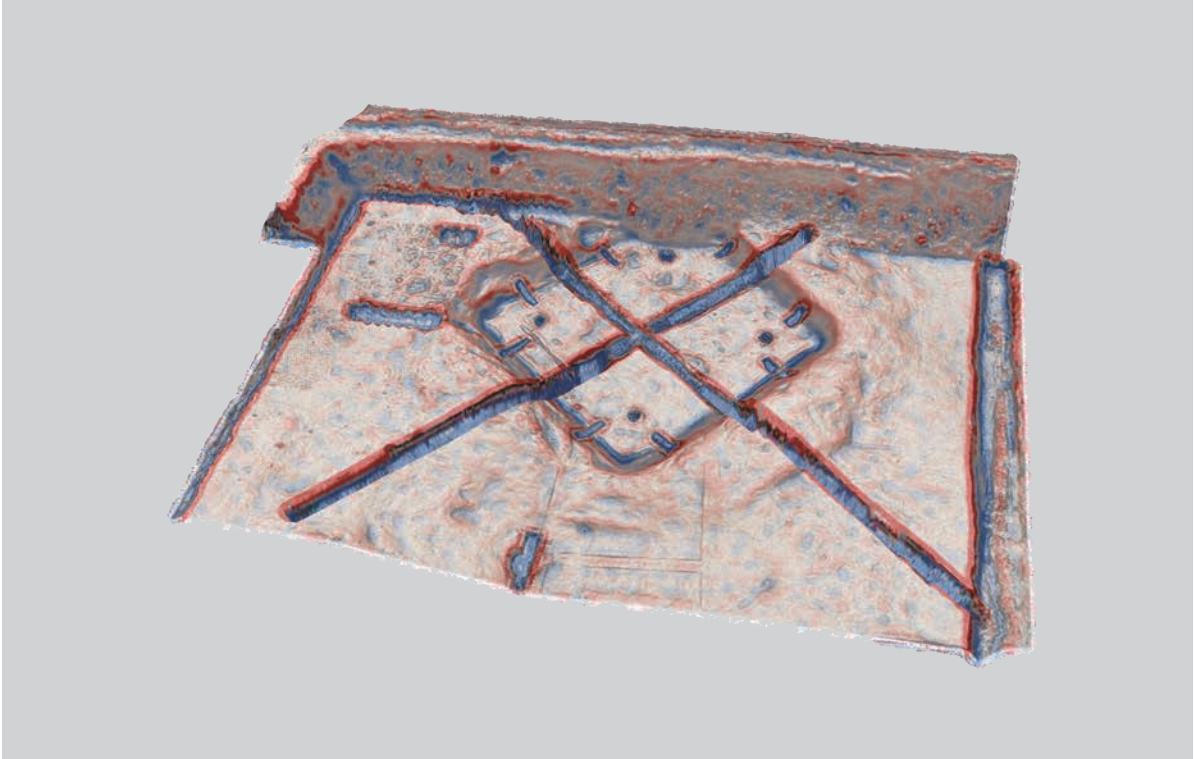
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

理事長　稲　荷　善　之

村上市　上 野 遺 跡（Ⅱ）

■　縄文土器・石器・土製品・石製品　　右端土器 高さ 11cm

南魚沼市　六日町藤塚遺跡（Ⅱ）



■　周堤が残る竪穴建物の 3 次元レーザー測量による CS 立体図（南東から）

目　　次

Ⅰ　（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

1　目的及び事業 …… 1
2　設立年月日 …… 1
3　基 本 財 産 …… 1
4　組　　織 …… 1
5　役員及び職員 …… 2
6　理事会・評議員会 …… 2
7　予算及び決算 …… 3
8　主 な 行 事 …… 4

Ⅱ　発掘調査・整理事業

1　本発掘調査実績一覧 …… 6
2　本発掘調査遺跡　位置図 …… 6
3　本発掘調査 …… 6
　上 野 遺 跡（Ⅱ）（国道 7 号朝日温海道路関係）…… 7
　丘 江 遺 跡（Ⅵ）（国道 8 号柏崎バイパス関係）…… 9
　丘 江 遺 跡（Ⅶ）（国道 8 号柏崎バイパス関係）…… 11
　六日町藤塚遺跡（Ⅱ）（国道 17 号六日町バイパス関係）…… 13
　坂之上遺跡（国道 17 号六日町バイパス関係）…… 15
　工田遺跡（国道 17 号浦佐バイパス関係）…… 17
4　整理・報告作業 …… 19
5　平成 30 年度刊行報告書 …… 19
6　保 存 処 理 …… 20

Ⅲ　普及啓発事業

1　現地説明会 …… 22
2　企画展・巡回展 …… 23
3　遺跡発掘調査報告会・講演会 …… 24
4　校外学習等・体験イベント …… 24
5　入 館 者 数 …… 26
6　広　　報 …… 27
7　図　　書 …… 28

Ⅳ　研修・各種委員会

1　職 員 研 修 …… 29
2　安全衛生委員会 …… 30

Ⅴ　市町村及び関係機関等への協力 …… 32

Ⅰ　（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

1　目的及び事業

県内における埋蔵文化財の調査及び研究、保護思想の普及、啓発などを行い、本県文化の向上に寄与することを目的として次の事業を行う。

ア　埋蔵文化財の調査及び研究

イ　埋蔵文化財保護思想の普及

ウ　埋蔵文化財調査技術の指導及び研修

エ　出土遺物の保存処理

オ　埋蔵文化財に関する資料の収集、保存及び刊行

2　設立年月日

平成４年３月31日

3　基本財産

3,000万円（県の出捐）

4　組　　織

（平成30年４月１日現在）

評議員会

評議員（4）

理事会

理事長（1）――― 専務理事（1）――― 理事（2）

監事（2）

事務局（職員総数33）

事務局長（1）

- 総務課長（1）――― 職員（1）嘱託員（3）
- 【本発掘調査・整理】 調査課長（1）――― 課長代理（2）――― 職員（4）嘱託員（8）
- 【普及・資料・保存処理】 普及・資料課長（1）―― 課長代理（1）――― 職員（1）嘱託員（9）

5　役員及び職員

（平成 30 年 4 月 1 日現在）

役　　員

【評議員】（4 名）　小林　昌二　寺﨑　裕助　橋本　博文　金子　法泰

【理事会】（6 名）

理　事　長　池田　幸博（新潟県教育委員会教育長）
理　　事　清野　一善（専務理事）　笠原　英一　小沢　昌己
監　　事　豊田　智　山田　修

職　　員

職　名	氏　名	職　名	氏　名	職　名	氏　名
事務局長	清野　一善	調査課長	沢田　敦	普及・資料課長	春日　真実
		【本発掘調査】		【普及・資料・保存】	
総務課長	松田　祐	課長代理	土橋由理子	課長代理	荒川　隆史
班長	星野　美奈	専門調査員	飯坂　盛泰	班長（再任用）	田海　義正
嘱託員	3 名	班長	加藤　元康	嘱託員	9 名
		主任調査員	田中　祐樹		
		再雇用嘱託員	鈴木　俊成		
		【整　理】			
		課長代理	石川　智紀		
		班長	小野本　敦		
		再雇用嘱託員	高橋　保		
		嘱託員	6 名		

6　理事会・評議員会

会議名	開催日	付議事項等
第 1 回定例理事会	平成 30 年 5 月 29 日	1　平成 29 年度事業報告 2　平成 29 年度決算 3　任期満了に伴う次期役員候補者の推薦 4　評議員会の開催 5　任期満了に伴う次期評議員候補者の推薦 6　任期満了に伴う次期評議員選定委員の選任
定時評議員会	平成 30 年 6 月 18 日	1　平成 29 年度事業報告 2　平成 29 年度決算 3　理事の任期満了に伴う改選 4　監事の任期満了に伴う改選
臨時理事会（決議の省略）	（平成 30 年 6 月 18 日）	1　理事長及び専務理事の選定
第 2 回定例理事会	平成 31 年 3 月 25 日	1　平成 30 年度事業計画の一部変更 2　平成 30 年度収支補正予算 3　平成 31 年度事業計画 4　平成 31 年度収支予算 5　個人情報保護規程の一部改正 6　役員の辞任に伴う補欠選任候補者の推薦 7　臨時評議員会の招集の決定 8　評議員の辞任に伴う補欠選任候補者の推薦
臨時評議員会（決議の省略）	（平成 31 年 3 月 29 日）	1　役員の選任

7　予算及び決算

平成 30 年度収支決算書

（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）

収　入　の　部

（単位：円）

科目 大	科目 中	当初予算額	補正後予算額 a	決算額 b	増減 (b－a)	備考
基本財産運用収入	基本財産利息収入	3,000	3,000	2,999	−1	
事業収入	発掘調査受託収入	772,063,000	737,549,000	737,549,541	541	
	センター管理運営受託収入	20,608,000	20,508,000	20,508,000	0	
	（センター管理業務受託収入）	8,086,000	8,300,000	8,299,650	−350	
	（保存処理業務受託収入）	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	（普及啓発業務受託収入）	8,000,000	7,900,000	7,900,000	0	
	（センター維持修繕業務収入）	1,322,000	1,108,000	1,108,350	350	
補助金収入	国庫補助金収入	2,986,000	2,986,000	2,986,000	0	
	地方公共団体補助金収入	1,493,000	1,493,000	1,493,000	0	
雑収入	雑収入	20,000	32,000	33,720	1,720	
当期収入合計 A		797,173,000	762,571,000	762,573,260	2,260	
前期繰越収支差額		175,000	215,000	215,277	277	
収入合計 B		797,348,000	762,786,000	762,788,537	2,537	

支　出　の　部

（単位：円）

科目 大	科目 中	当初予算額	補正後予算額 a	決算額 b	増減 (b－a)	備考
受託事業費支出						
	発掘調査費支出	695,668,000	665,543,000	665,542,663	−337	
	（国土交通省発掘調査費）	686,609,000	656,484,000	656,483,775	−225	
	（新潟県発掘調査費）	9,059,000	9,059,000	9,058,888	−112	
	センター管理業務費支出	8,086,000	8,300,000	8,299,650	−350	
	保存処理業務費支出	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	普及啓発業務費支出	8,000,000	7,900,000	7,900,000	0	
	センター維持修繕業務費支出	1,322,000	1,108,000	1,108,350	350	
補助事業費支出						
	補助事業費支出	5,972,000	5,972,000	5,972,000	0	
管理費支出						
	総務費支出	188,000	197,000	197,415	415	
	管理費支出	74,714,000	70,316,000	70,316,463	463	
当期支出合計 C		797,150,000	762,536,000	762,536,541	541	
当期収支差額（A−C）		23,000	35,000	36,719	1,719	
次期繰越収支差額		198,000	250,000	251,996	1,996	

8 主 な 行 事

【平成 30 年】

4 月 2 日　辞令交付

3 日　初任者研修

13 日　春季企画展「火焔型土器－縄文の息吹－」開会 （新潟県埋蔵文化財センター　以下、埋文センター）、5 月 27 日、5 月 29 日から 6 月 24 日まで

22 日　新潟県埋蔵文化財センター講演会①（埋文センター）

5 月17 日・18 日　全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会（福島県白河市）

20 日　新潟県埋蔵文化財センター講演会②（埋文センター）

22 日　会計（監事）監査（平成 29 年度）

26 日　巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡と火焔型土器－」魚沼展開催（目黒邸資料館）、7 月 16 日まで。

29 日　平成 30 年度第 1 回定例理事会（自治会館）

6 月 3 日　「花と遺跡のふるさとフェスタ」（埋文センター）

5 日　評議員選定委員会（埋文センター）

14 日・15 日　全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会（兵庫県神戸市）

17 日　少年少女考古学教室①、新潟県埋蔵文化財センター講演会③（埋文センター）

18 日　平成 30 年度　第 1 回定例評議員会（埋文センター）

26 日　安全衛生委員会現場巡視①（丘江遺跡Ⅵ、丘江遺跡Ⅶ、六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡）

30 日　『埋文にいがた』103 号　発行

7 月 6 日　夏季企画展「丸木舟の考古学」開会（埋文センター）、12 月 9 日まで

7 日　安全衛生委員会現場巡視②（上野遺跡）

21 日　巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡と火焔型土器－」村上展開催（村上市縄文の里・朝日）、9 月 24 日まで。

22 日　新潟県埋蔵文化財センター講演会④（埋文センター）

27 日　安全運転管理者講習

29 日　六日町藤塚遺跡現地説明会（南魚沼市）

8 月 5 日　親子考古学教室①（埋文センター）

6 日　県文化行政課連絡調整会議①（自治会館）

テュービンゲン大学留学生インターンシップ（埋文センター）8 月 7 日まで

8 日　親子考古学教室②（埋文センター）

26 日　新潟県埋蔵文化財センター講演会⑤（埋蔵文化財センター）

29 日～ 31 日　文化庁平成 30 年度第 1 回埋蔵文化財担当職員等講習会（岩手県釜石市ほか）

9 月 3 日　職員健康診断（埋文センター）

9 日　少年少女考古学教室②、新潟県埋蔵文化財センター講演会⑥（埋文センター）
丘江遺跡Ⅶ現地説明会（柏崎市）
30 日　『埋文にいがた』104 号　発行

10月 6 日　巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡と火焔型土器－」佐渡展開催（佐渡市佐渡博物館）、12 月 16 日まで。
7 日　まいぶん祭り（埋文センター）
11 日・12 日　全国埋蔵文化財法人連絡協議会北信越ブロック会議（みなとぴあほか）
21 日　新潟県埋蔵文化財センター講演会⑦（埋文センター）
上野遺跡Ⅱ現地説明会（村上市）
25 日・26 日　全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会（千葉県千葉市）
26 日　安全衛生委員会　救急法講習

11 月 2 日　消防訓練（埋蔵文化財センター）
7 日・8 日　埋蔵文化財保護対策五県協議会（富山県富山市）
11 日　少年少女考古学教室③、新潟県埋蔵文化財センター講演会⑧（埋文センター）
22 日　市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修①（埋文センター）
30 日・12 月 1 日　全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会（東京都多摩市）

12 月 9 日　新潟県埋蔵文化財センター講演会
11 日　関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者会議（長野県長野市）
14 日　市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修②（埋文センター）
21 日　巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡と火焔型土器－」新潟展開催（埋文センター）、平成 31 年 3 月 24 日まで。
25 日　『埋文にいがた』105 号　発行

【平成 31 年】

1 月25 日　リニューアル常設展示開始
27 日　少年少女考古学教室④、新潟県埋蔵文化財センター講演会⑩（埋文センター）

2 月14 日・15 日　市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修③（新潟県庁）

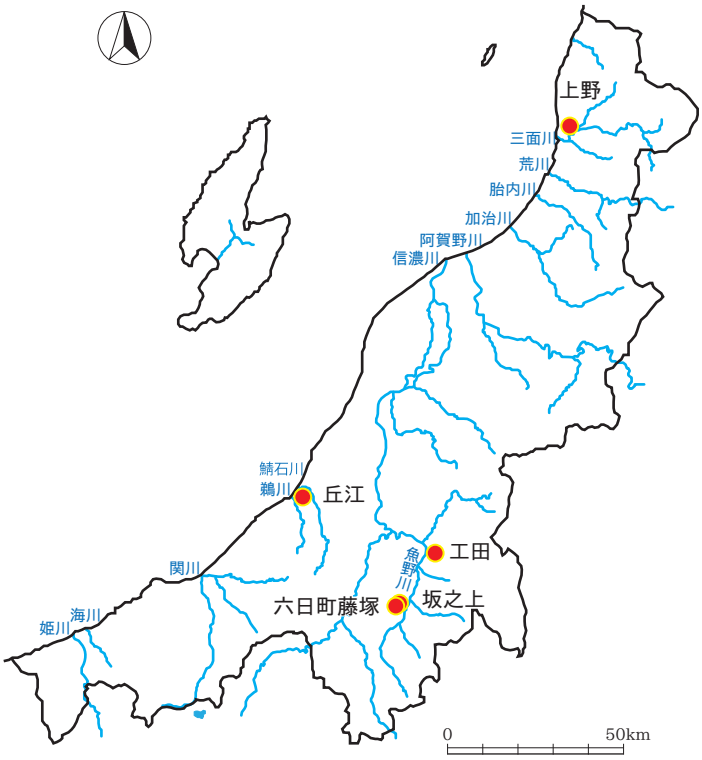
3 月 5 日　「発掘！新潟の遺跡 2018 展」開催（新潟県立図書館　エントランスホール）、3 月 17 日まで
10 日　第 23 回遺跡発掘調査報告会・シンポジウム「白河荘の考古学」（新潟県立生涯学習推進センター　ホール）
13 日　県文化行政課連絡調整会議②（自治会館）
17 日　新潟県埋蔵文化財センター講演会⑪（埋文センター）
25 日　平成 29 年度第 2 回定例理事会（自治会館）
『埋文にいがた』106 号　発行

Ⅱ　発掘調査・整理事業

1　本発掘調査実績一覧

事業者		路　線	遺跡名（回数）	所在地	調査期間	面積（依頼）	面積（実質）	主な時代	主な遺構・遺物	担当者	報告書刊行予定
国土交通省	新潟国道事務所	国道７号 朝日温海道路	上野（Ⅱ）	村上市猿沢・桧原	5/21～11/22	6,230	2,161	縄文	竪穴建物、土坑、溝、ピット、焼土遺構、埋設土器、性格不明遺構、自然流路、廃棄場、縄文土器・土製品、石器・石製品	土橋由理子	31年度以降
国土交通省	長岡国道事務所	国道８号 柏崎 BP	丘江（Ⅵ）	柏崎市田塚３丁目	4/18～11/22	15,000	13,560	弥生 中世	竪穴建物、掘立柱建物、水田区画、土坑、溝、ピット、木杭、河川跡 弥生土器、石器、土師器・陶器、石製品、木製品、金属製品	飯坂盛泰	31年度以降
国土交通省	長岡国道事務所	国道８号 柏崎 BP	丘江（Ⅶ）	柏崎市茨目３丁目	5/7～10/1	2,180	2,574	中世 近世	掘立柱建物、井戸、土坑、溝、ピット、性格不明遺構、水田区画、土塁 土器・陶磁器、石製品、金属製品、木製品	南波　守（㈱大石組）	31年度以降
国土交通省	長岡国道事務所	国道 17 号 六日町 BP	六日町藤塚（Ⅱ）	南魚沼市余川字藤塚	4/26～12/13	8,720	3,319	古墳 古代 中世	竪穴建物、壁立建物、土器集中遺構、土器集積遺構、集石遺構、焼土遺構、ピット 土師器、須恵器、刀子、臼玉、管玉、勾玉、土製品、砥石、集石石材、木製品	加藤元康	31年度以降
国土交通省	長岡国道事務所	国道 17 号 六日町 BP	坂之上	南魚沼市余川字坂之上	4/26～12/13	2,600	3,309	古墳 古代	竪穴建物、土坑、溝、ピット、性格不明遺構、自然流路 土師器・土製品、須恵器、臼玉、石製模造品（剣形、双孔方板）、金属製品（鋤鍬先）	加藤元康	31年度以降
国土交通省	長岡国道事務所	国道 17 号 浦佐 BP	工田	魚沼市大浦字工田	10/1～12/5	1,055	803	縄文	水田区画、杭列 須恵器、土師器、土師質土器、杭、陶磁器	南波　守（㈱大石組）	31年度以降
合　計						35,785	25,726				

2　本発掘調査遺跡　位置図



3　本 発 掘 調 査

上 野 遺 跡（Ⅱ）（7～8 頁）
事業名：国道７号朝日温海道路
所在地：村上市猿沢・桧原
面　積：2,161m²

丘 江 遺 跡（Ⅵ）（9～10 頁）
事業名：国道８号柏崎バイパス
所在地：柏崎市田塚３丁目
面　積：13,560m²

丘 江 遺 跡（Ⅶ）（11～12 頁）
事業名：国道８号柏崎バイパス
所在地：柏崎市茨目３丁目
面　積：2,574m²

六日町藤塚遺跡（Ⅱ）（13～14 頁）
事業名：国道 17 号六日町バイパス
所在地：南魚沼市余川字藤塚
面　積：3,319m²

坂之上遺跡（15～16 頁）
事業名：国道 17 号六日町バイパス
所在地：南魚沼市余川字坂之上
面　積：3.309m²

工田遺跡（17～18 頁）
事業名：国道 17 号浦佐バイパス
所在地：魚沼市大浦字工田
面　積：803m²

上野遺跡（Ⅱ）

事業名：国道７号朝日温海道路
所在地：村上市猿沢・桧原
面　積：2,161㎡

■ **遺跡の立地と調査の概要**　遺跡は高根川右岸の西から東へ緩やかに下る丘陵裾部に立地し、現標高は約 35～37m である。調査区北側で、縄文時代後期前葉の居住域と廃棄場を検出した。居住域は南端部を調査したにすぎず、試掘調査ではさらに北側で複数の住居を検出している。調査区南側には谷の旧地形に沿って流れたとみられる土石流に由来する砂礫が 4m あまり堆積していた。縄文時代後期の土器が含まれていたので、上流の集落を巻き込みながら流れてきたと推定される。

● 調査区全景（北から）

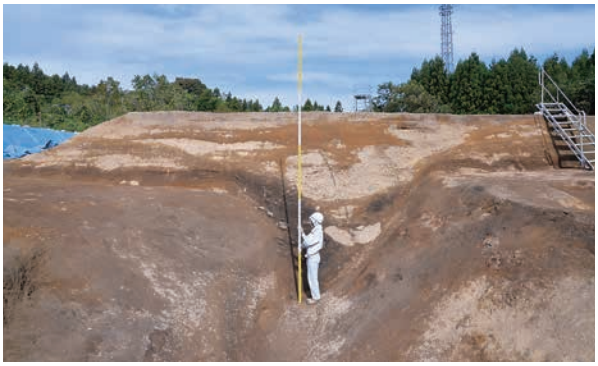
■ **層　序**　遺跡は複数回の土石流に由来する砂礫が堆積して形成されており、旧地形は東側から南側にかけての谷（河川）と北西側の平坦面に大別される。表面を覆うⅠ・Ⅱ層より下の層序は地形によって異なるため、南側の土石流堆積物（A 群）、北側の集落域（B 群）、両者の中間の谷部分（C 群）に３大別して層序を整理した。A 群は河川だったところを土石流が流れた場所で、B 群の堆積層はA 群の土石流によって破壊されている。両者の漸移部分が C 群である。なお、谷は現地表から 5m 以上深くなる場所もある。深さ 5m は今年度の調査区幅で確保できる安全勾配による掘削深度を超えるため、谷を完全に掘り下げることができなかった。よって、今回設定した層序は調査の進展によって修正が必要になる可能性もある。

土石流堆積物は調査区北西側の山地の崩落に由来するもので、明黄褐色の花崗岩質の礫を主体とするが、土石流の供給源となった露頭の状況を反映して礫の摩耗度合が異なる。そこで、細分される土層を礫の摩耗度合でグルーピングして整理した。呼称は「A 群-１」のように群と大別をつなげる形とした。

A 群：１～４が土石流堆積物、５・６が最下層の河川堆積物。

B 群：縄文時代後期の遺物を包含する黒色土層が２層あったので、上位の黒色土を 2、下位の黒色土を

● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院　「塩野町」平成 15 年発行）



● 層　序　B群（南から）

● 層　序　A群（南から）

4とした。そして、2の上に堆積する土石流堆積物を1、2と4の間を3、4に対する遺構確認面となる層を5とした。さらに5の下に黒色土が2層あり、これを6・8とし、その間層を7とした。6は縄文時代前期前葉の遺物を少量含む。8より下は昇順で分層した。7以下は今年度調査では無遺物層である。4が主たる包含層で、居住域から谷へ連続的に落ち込み廃棄域の堆積層となる。廃棄域内では局所的に黄褐色土等の堆積が見られたので、その部分については細分した。

C群：A群とB群の中間の谷部分に設定した。両群の層が入り混じり複雑な様相を呈する。

また、各群ともに遺構形成後の大地震による噴砂、地層の途切れ・歪みが生じていたことは特筆される。

■ **遺　構**　遺構は、縄文時代後期前葉の埋設土器6基、竪穴建物1基、土坑4基、溝3条、ピット57基、焼土2基、性格不明遺構2基、廃棄場がある。遺構が作られた時期には若干の時間差があり、埋設土器は竪穴建物などを覆う土石流を掘り込んで作られていた。居住域だった場所が土石流後に墓地へ変化した可能性がある。調査の主体を占めたのは居住域に隣接する谷に築かれた廃棄場である。谷は北側で当時の地表から深さ約2.5m、南へ行くに従って深くなる。居住域近くでは遺物が折り重なって出土した。

■ **遺　物**　遺物は土器・石器・土製品・石製品のほかにアスファルトあるいは漆とみられる塊等がある。大部分は廃棄場から出土し、収納箱（箱の内寸54×30×10cm）で約930箱に上る。土器は縄文時代後期初頭から後期前葉にかけての三十稲場式と南三十稲場式が主体であり、少量の東北系統の土器もある。

■ **まとめ**　上野遺跡は縄文時代後期初頭から前葉の集落である。調査したのは集落の南端であるが、北側の試掘調査で複数の住居を検出していることや廃棄遺物が膨大であることなどから、大きな集落があったと推定される。集落を覆う土石流及び調査区南側の土石流は縄文時代の遺物を含むことから、上流に当該時期の遺跡があったと考えられる。調査地点は度重なる土石流によって埋没し、平坦な現地形が形成されていた。また、縄文時代後期前葉より後の大地震の痕跡を多く確認したことは、土石流とともに当地域の形成史及び災害史を知るうえで重要な成果である。　（土橋由理子）

● 竪　穴　建　物

● 埋　設　土　器（縄文時代後期）

丘江（おかえ）遺跡（Ⅵ）

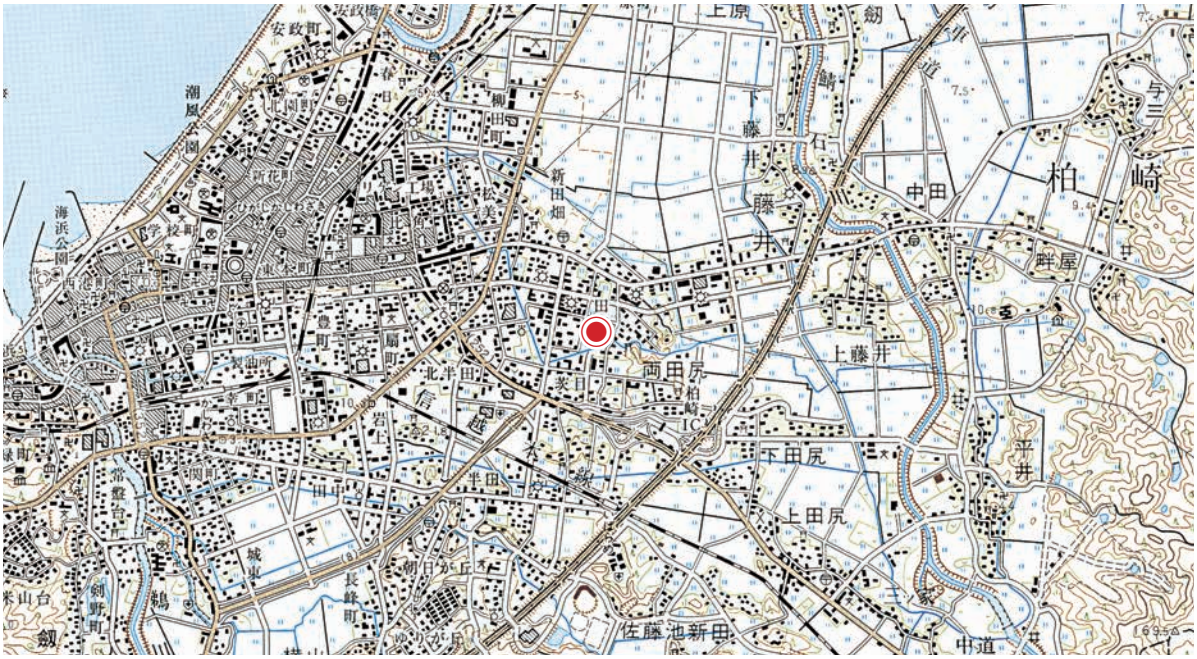
事業名：国道８号柏崎バイパス
所在地：柏崎市田塚３丁目
面　積：13,560m²

● 調査区全景（上空北から）

■ **遺跡の立地と調査の概要**　遺跡は、柏崎平野の中央西寄り、鯖石川左岸の標高約 6.5 ～ 7m の沖積扇状地の末端に位置する。調査は 2014 年から継続中で、これまで調査対象範囲の南側が中世の集落の居住域で、中央より北側は当時の水田域であることが明らかになっている。また、水田域側の下層で縄文時代後期の遺物、弥生時代後期の遺物を含む流路、平安時代の遺構・遺物を確認している。2018 年度は、水田域の一画を対象とした。遺構面は上層・中層・下層の３面あり、上層は中世後期から江戸時代前期、中層は中世前期から後期、下層は中世前期、弥生時代後期である。調査面積は延べ 13,560m²（上層 4,626m²、中層 4,553m²、下層 4,381m²）である。

■ **層　序**　基本層序は、これまでの調査成果に準拠しⅠ～Ⅳ層に分層した。Ⅰ層：灰色粘土（表土）、Ⅱa 層：黒褐色粘土（上層の水田耕作土）、Ⅱb 層：オリーブ灰色シルト（上面が上層の遺構検出面、中層の水田面を覆う）、Ⅲ層：黒色粘土（上面が中層の遺構検出面、下層水田の耕作土））。Ⅳ層は明青灰色粘土（上面が下層の遺構検出面、一部で上位に炭化物粒が混じる弥生時代後期の遺物包含層が堆積する。）

■ **遺　構**　遺構は、上・中・下層面で中世の水田の畦畔・溝を検出した。下層面では、ほかに中世の土坑・ピット、古代に帰属する可能性のある掘立柱建物、弥生時代後期の竪穴建物・土坑・流路を検出



● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院 「柏崎」平成 19 年発行）

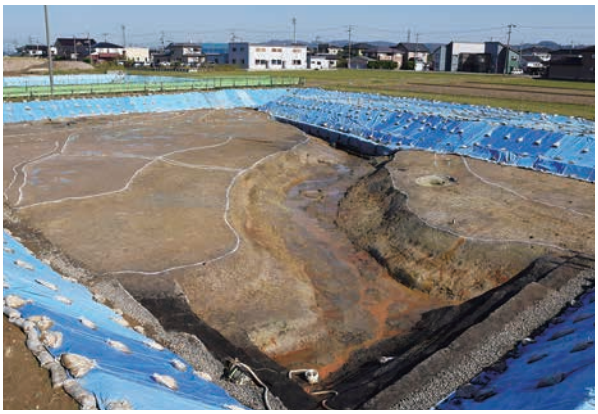
した。上層の水田は、東西-南北方向を基軸に畦畔を設けて区画している。中・下層では、弥生時代の流路が存在した付近で変遷がある。下層の時期にはまだ半埋没状態で、この流路に沿って水田を段丘状に築いていたが、中層の時期になると流路はほぼ埋まり、流路が存在したところにも横断する畦畔が設けられるようになる。弥生時代後期の竪穴建物は、中世の水田耕作で削平を受けていたが１軒検出した。竪穴建物は炉と柱穴を検出し、器台・鉢などの弥生土器が出土した。流路は調査区の北東から南西方向で検出し、川底付近から多量の弥生時代の遺物が出土した。

■ **遺　物**　　弥生時代後期、鎌倉時代・室町時代・安土桃山時代の中世、江戸時代前期の遺物が出土した。弥生時代後期では高杯・器台・甕・鉢・蓋などの土器、緑色凝灰岩と鉄石英を素材にした管玉未成品、ヒスイ剝片、砥石などが出土した。中世の遺物は土師質土器・珠洲焼・瀬戸美濃焼・青磁・石製品（砥石）・金属製品（小柄・釘など）・銭貨（熙寧元寶・洪武通寶）などが出土した。江戸時代の前期の遺物は、上層で検出した溝から唐津焼、越中瀬戸焼、硯などが出土した。

■ **まとめ**　　2017 年度に調査した丘江遺跡Ⅳ・Ⅴから続く鎌倉から安土桃山時代の各層の水田を検出し、水田の広がりの様相がさらに明らかになった。また、弥生時代後期の竪穴建物の発見、流路から出土した多量の土器や管玉未成品の出土から流路周辺に集落が存在していた可能性が窺える。（飯坂盛泰）

● **中 層 の 水 田**（北西から）

● **弥生時代後期の竪穴建物**（南西から）



● **下層の水田と流路**（南西から）

● **流路の弥生土器出土状況**（北西から）

丘江（おかえ）遺跡（Ⅶ）

事業名：国道８号柏崎バイパス
所在地：柏崎市茨目３丁目
面　積：2,574m²

■ **遺跡の立地と調査の概要**　調査地点は、柏崎（かしわざき）平野北西部、鯖石川（さばいしがわ）左岸の沖積地に位置する。標高は６～７mである。平成26年度から５回の発掘調査（Ⅰ～Ⅴ次調査）が行われており、今回の調査は丘江遺跡の中では最も南側に位置する。調査面は上層と下層で、現地表に残る土塁の範囲を上層として調査したため、調査面積は2,574m²（上層799m²、下層1,775m²）である。調査面は南西側の標高がやや高い。上層では江戸時代以降に築造された土塁、下層では鎌倉時代から室町時代を中心とする集落跡を検出した。また、下層の一部では江戸時代と考えられる井戸や水田区画も検出している。

● 調査区全景（下層）（北東から）

■ **層　序**　基本層序は過去の調査にならいⅠ～Ⅳ層に分層した。Ⅰ層上面には表土・盛土が堆積する。Ⅰ層は灰色シルト（7.5Y4/1）で、近世以降の水田耕作土である。Ⅱ層は褐灰色から黄灰色（10YR4/1～2.5Y4/1）のシルトで、中世の遺物包含層である。わずかに古代の遺物が混じる。調査区北側は江戸時代以降の耕作などによる削平や攪乱を受けていたため、南側のみで確認できた。Ⅲ層は弥生時代後期から古墳時代前期の遺物包含層だが、今回の調査範囲には存在しない。Ⅳ層は灰オリーブシルト（7.5Y6/2）で、中世の遺構検出面である。

■ **遺　構**　上層の土塁は平面形がＬ字状で、規模は長さ約36m、幅6m、現地表面からの高さは約1m（盛土高約1.5m）である。遺物の出土状況や堆積状況から、江戸時代以降に築造され、現代まで土を繰り返し盛りながら利用していたことがわかった。周囲に溝が確認できないことから、盛土の土は別の場所から搬入された可能性が高い。下層では、鎌倉時代から室町時代の掘立柱建物３棟と、江戸時代まで

● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院「柏崎」平成19年発行）

を含む、井戸 85 基、土坑 22 基、溝 19 条、ピット 543 基、性格不明遺構 9 基などを検出した。柱根が残るものや柱痕を有する柱穴を多数検出しているので、整理をとおして掘立柱建物がさらに増える可能性が高い。井戸はほとんどが井戸側を持たない素掘りで、そのほとんどで湧水を確認した。井戸の内部に箸や曲物などをはじめ多量の木製品を投入したものや、土器や礫などを据え置いたものがある。これらは祭祀を執り行った痕跡とみられる。溝は大小検出しており、そのうち幅 2 ～ 3m の広い溝は、方形に巡ると推測できるものや直交するもので、屋敷地を区画するために掘られた可能性が高い。

■ **遺　物**　　上層では、土塁の盛土中から、江戸時代から現代までの陶磁器類が出土した。下層では、鎌倉時代から室町時代を中心に、土師質土器、珠洲焼、瀬戸・美濃焼、青磁、白磁、青白磁などの土器・陶磁器、砥石、硯、碁石、茶臼、石臼などの石製品、漆器、箸、匙、曲物、杓子、板草履、柱根、杭などの木製品、銭貨などが出土した。このほか古代の土師器や須恵器もわずかに出土した。井戸や溝からは自然礫が多数出土しており、中には被熱し、煤や炭化物が付着したものも見つかった。このほか炭化した籾殻の塊や、部材をはじめとする多量の木片も出土した。遺物の多くは井戸や区画溝からのものである。

■ **まとめ**　　調査の結果、下層では、建物や井戸を繰り返し建て直したり、掘り直したりしていることがわかった。また、井戸の数の多さが際立つ。多くは直径 0.8 ～ 1m、深さ約 0.7 ～ 1m の規模であるが、中には直径 1.6m、深さ 1.5m 以上と比較的大型なものもある。屋敷地を区画する方形に巡る溝や、青磁、白磁の皿や盤、青白磁の梅瓶、瀬戸・美濃焼の合子や茶道具の天目茶碗、茶臼などの遺物が出土していることからも、この地域に階層の高い有力者が生活していたと考えられる。今後はこれまでに行われてきた丘江遺跡の調査成果を踏まえ、当遺跡の持つ性格などを詳細に検討していく。

（株式会社大石組　松井奈緒子）

● 区　画　溝（西から）

● 井　戸　断　面（西から）

● 土器・陶磁器（鎌倉～室町時代）

● 茶　臼（鎌倉～室町時代）

六日町藤塚遺跡（Ⅱ）

（むいかまちふじつか）

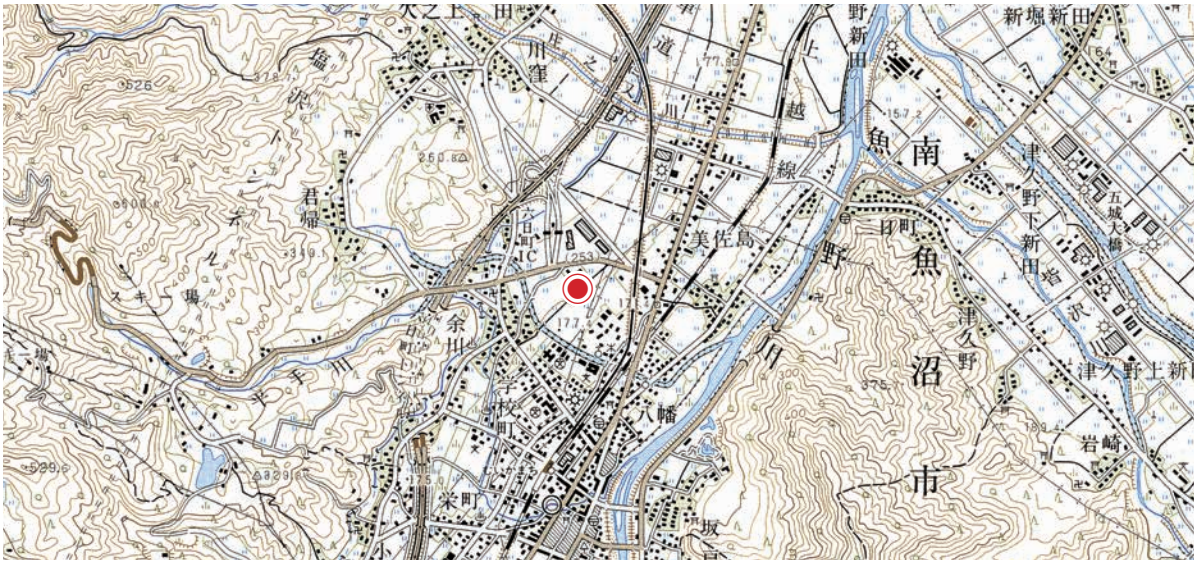
事業名：国道 17 号六日町バイパス
所在地：南魚沼市余川字藤塚
面　積：3,319m²

■ **遺跡の立地と調査の概要**　遺跡は南魚沼市余川字藤塚に所在し、魚野川左岸の庄ノ又川の扇状地に立地する。調査は 2 層調査を主体に、部分的に 3 層調査を実施している。時期は平安時代～中世（最上層）、古墳時代後期前半（上層）、古墳時代中期末から後期初頭（下層）である。調査区は平成 29 年度調査区を拡張した B 区、それ以外は調査工程によって、C 区～F 区を設定した。平成 29 年度調査の A 区と E 区・B 区、C 区・F 区・D 区は調査区が接している。標高は C 区最上層が 180.3m、B 区上層が 178.2m、B 区下層が 178.0m である。B 区・C 区の一部、D 区は上層調査終了の後、トレンチを掘削し、遺物の出土や土層の堆積状況を確認して、調査を終了した。周堤帯が残る竪穴建物は遺構の重要性と微細な地形測量が必要であるために、3 次元レーザー測量を実施し、3D モデルを作成した。

● 調 査 区 全 景（東から 左奥が飯綱山古墳群、右奥が蟻子山古墳群）

■ **層　序**　基本層序は平成 29 年度の基本層序を参照し、Ⅰ～XⅢ層に分層した。遺物包含層は最上層のⅣ層（平安時代～中世）、上層のⅨ層（古墳時代後期前半）、下層のXⅡ層（古墳時代中期末～後期初頭）である。上層は上位と下位で層質が異なり、B 区では間層が認められ、上層上位下面から竪穴建物が掘削されていることから、上位と下位に分層して調査を実施した。Ⅴ層は大中の礫と砂・シルトを主体する土石流堆積層を一括している。XⅢ層以下は土石流堆積土で、その下からは埋没した立木の樹木を検出している。

■ **遺　構**　最上層の遺構は、焼土 1 か所をⅣ層上面で検出した。上層の遺構の検出面はⅨ層上面、



● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院 「十日町」平成 20 年発行）

Ⅸ層上位下面、Ⅸ層下位下面で、竪穴建物、平地建物、堀、溝、土坑、ピット、焼土遺構、土器集中遺構を検出した。下層の遺構検出面はⅫ層下面で、集石遺構、土器集積遺構、柱穴を検出した。上層の竪穴建物は周堤帯が残り、廃絶後にⅨ層上位とⅤ層に覆われていた。平地建物は、炉を中心に浅い溝が巡り、壁立ち構造の建物と考える。下層の集石遺構は長楕円形の礫を中心に、部分的に３段に積んでいた。土器集積遺構は須恵器のハソウ、土師器の椀、高杯、壺、鉢、甕、手づくね土器、石製模造品、鉄製品を配置し、臼玉、管玉を伴った祭祀に関係する遺構である。

■ **遺　物**　　最上層の遺物は少量で、土師器がまとまって出土する箇所があるが、ほとんどが包含層中から出土した。上層の遺物は土器集中遺構と竪穴建物を中心に出土し、土器集中遺構では土師器の椀・高杯・甕が破片状態で出土した。Ｂ区中央の土器集中遺構には２個体分の須恵器甕の破片が含まれ、広範囲に散在し、特徴的である。この他、砥石や勾玉、臼玉、土製丸玉、土錘が出土している。下層の遺物は、完存率の高い土師器が多く、土器集積遺構に顕著である。須恵器と多様な器種の土師器が置かれ、周囲からは多量の臼玉を検出した。各グリッドの中央から 0.5m² の土壌サンプルと焼土を採取し、洗浄作業を実施した。その結果、臼玉、土製丸玉、焼骨片などの微細遺物を検出した。

■ **まとめ**　　上層は集落であることが判明した。竪穴建物は魚野川側のＢ区から、平地建物はその反対の北西側のＣ区・Ｆ区から検出した。建物は２時期に分かれ、上層上位上面に炉を持つ平地建物があり、上層上位下面から掘削している竪穴建物や同面に炉を持つ平地建物がある。上層下位の包含層中の土器集中遺構が竪穴建物の周堤帯下にも広がっていることから、上層は層位的に３時期を含んでいる。下層は柱穴を検出したが、他の遺構は希薄で、土器集積遺構から祭祀の場と考える。祭祀の場から集落へと場の利用が変遷することがわかった。　　（加藤元康）

● Ｂ区 SI30（西から）

● Ｃ区・Ｆ区の平地建物（北東から）

● Ｆ区 SX79（南東から）

● Ｆ区 SX79（上から）

坂之上遺跡（さかのうえ）

事業名：国道 17 号六日町バイパス
所在地：南魚沼市余川字坂之上
面　積：3,309m²

■ **遺跡の立地と調査の概要**　遺跡は南魚沼市余川字坂之上に所在し、魚野川左岸の庄ノ又川によって形成された扇状地に立地する。調査は奈良・平安時代（上層）と古墳時代後期前半（下層）の２層調査で、標高は前者が 180.3m、後者が 179.6m である。調査区は南に下がる緩斜面で、北側には旧六日町教育委員会が平成７年度に発掘調査を実施した調査範囲、南西側には六日町藤塚遺跡がある。上層の検出面の南東隅で近世以降の溝、南西隅で土石流による攪乱を受けていたが、下層までは及んでいなかった。六日町藤塚遺跡との層序対比から、古墳時代中期末～後期初頭の包含層が存在する可能性があったため、下層の調査完了後に、重機によるトレンチ掘削を実施し、黒色土層の堆積を確認し、遺構・遺物がなかったことから、調査を終了した。

● 調 査 区 全 景（東から 左奥が飯綱山古墳群、右奥が蟻子山古墳群）

■ **層　序**　基本層序は近接する六日町藤塚遺跡を参考に、Ⅰ～XI 層に分層した。遺物包含層は上層のⅣ層（奈良・平安時代）、下層のⅨ層（古墳時代後期前半）である。Ⅴ層とXI 層直下層は礫や砂を含む土石流堆積土である。上層の検出面はⅣ層下面で、Ⅳ層中に焼土が確認できた場合はその面を検出面とした。下層はⅨ層下面を検出面とした。調査区中央以南のⅨ層は調査区北側に比べて、黒味が淡くなり、包含層の検出は困難であった。

■ **遺　構**　上層は竪穴建物、溝、土坑、ピット、焼土遺構を検出した。竪穴建物はカマドを中心に部分的に検出し、カマドの両袖の外側には礫が立て置かれていた。溝は畝状の短い溝も含んでいる。下層

● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院 「十日町」平成 20 年発行）

は土坑、溝、ピット、自然流路、焼土遺構を検出した。自然流路は調査区北西隅から南に向かって傾斜し、調査区中央で不明瞭になる。自然流路には、分岐する溝や、並行する溝、自然流路に沿って並ぶピットが伴う。規模の大きい土坑は直線的に並ぶような状態で、堆積状況が類似する。風倒木痕の可能性を検討したが、土器の出土や焼土の堆積などの特徴があったことから、土坑として記録した。ピットは調査区中央以北の西側に密集する傾向があり、調査区中央付近のピットは北側や南側のピットより深く掘られている傾向がある。建物等の配列が認められるピットはなかった。

■ **遺　物**　　上層は土師器甕、須恵器（横瓶、有台椀、無台椀）、転用硯、敲石が出土した。遺物は包含層出土を主体とし、遺構出土は少量で、包含層は古墳時代の土師器を多く含んでいた。当調査区より上位面の遺物が流れ込んでいると考えられる。下層は自然流路からの出土が最も多く、次いで包含層からの出土が多い。自然流路からは土師器（椀、高杯、壺、甕）、石製模造品（剣形）、手づくね土器、羽口、鉄滓が出土した。土坑からは土器、包含層からは土師器（椀、高坏、甕）、鉄製品（鍬鋤刃先）、石製模造品（有孔石製品）が出土し、須恵器甕の破片が調査区南側に点在する。遺跡の北東側は礫層が広がっており、包含層と礫層が混じり合う付近まで遺物が出土した。

■ **まとめ**　　上層は、竪穴建物を検出し、その他の建物は確認できず、畝状の溝や土坑を検出した。南西隅に向かって、遺物出土量が減る傾向にあり、調査区は集落の外縁と考えられる。下層は自然流路の北側から多量の土師器が出土し、包含層中の土師器の出土量も調査区北側に偏る傾向があり、羽口や鉄滓も同様である。調査区南側では遺物出土量は少ないものの、須恵器の破片が散在し、完存率の高い土師器が出土する。調査区北側と南側で状況が異なり、集落のあり方によるものか、時期差によるものか検討する必要がある。上層・下層ともに遺物量や遺構の検出状況から集落の外縁部と考えられる。（加藤元康）

● SI37 カマド部分完掘状況（北から）

● 調査区南側下層包含層遺物出土状況（西から）

● SK38 北側遺物出土状況（東から）

● SD83・SD84・SK90 完掘状況（南東から）

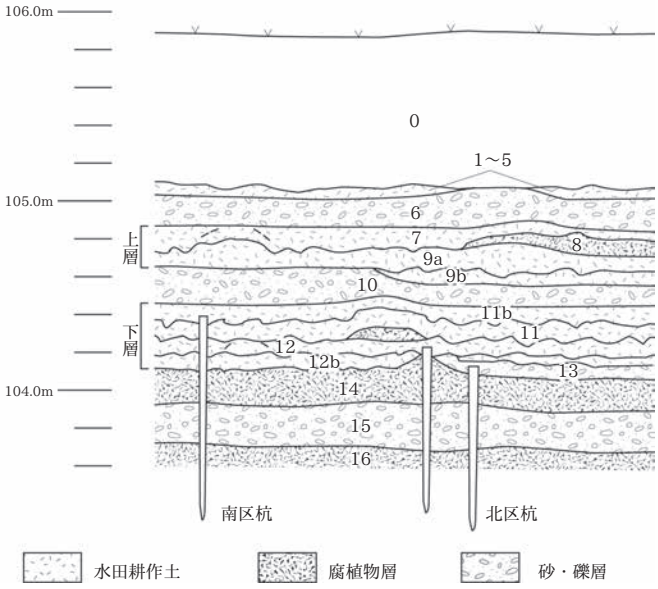
工田遺跡（たくみだ）

事業名：国道 17 号浦佐バイパス
所在地：魚沼市大浦字工田
面　積：803m²

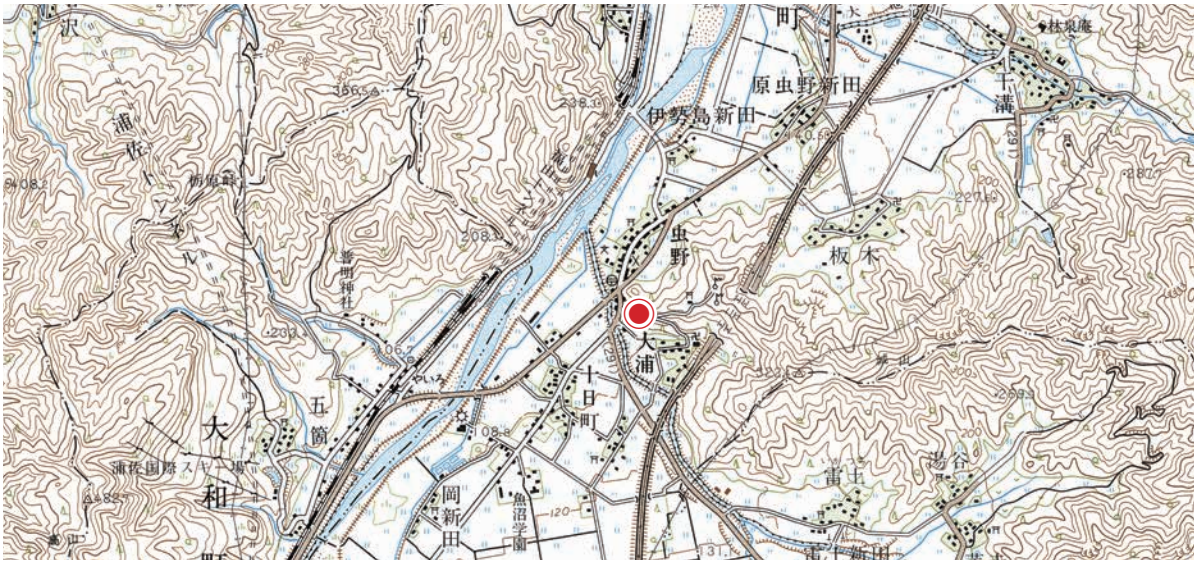
■ **遺跡の立地と調査の概要**　調査地点は、魚野川（うおのがわ）支流、三用川（みようがわ）右岸の氾濫原に位置する。標高は現地表面で約 106m である。調査面積は 803m²（上層 109m²、下層 694m²）である。調査区が南北に分かれていたため、それぞれを南区、北区と称して調査を進めた。北区は、当初 12 層を中心に調査したため、下層のみの確認にとどまる。その後、北区の状況を踏まえて、南区は上・下層の調査を行った。

■ **層　序**　遺跡の堆積土は 0 ～ 16 層に分層した。0 層は工事に伴う盛土である。1 ～ 5 層は黄灰色シルト主体の土壌で、近世以降の水田耕作土と考えられる。6 層はオリーブ灰色砂主体の洪水堆積土である。7 層と 9 層は上層の水田耕作土で、灰黄褐から黄灰色のシルトを主体とする。8 層は灰色シルトと暗褐色の腐植物層からなる自然堆積土で、10 層は砂と礫の互層からなる洪水堆積層である。11 層、12 層は下層の水田耕作土である。13 層は、9 ～ 12 層よりも下位で、14・15 層よりも上位に当たる洪水堆積層を一括した。14 層は、砂と腐植物を含むシルトの互層で、13 層と 15 層の間層を一括した。部分的にラミナを形成し、12b 層の水田で畦畔となる場所もある。15 層は砂層と礫層の互層である。礫の径は大きい。16 層はシルトと腐植物の互層である。

■ **遺　構**　上層は、7 層で近世と考えられる水田区画（畦畔）を検出した。下層では、中世と考えられる水田区画や杭列



● 遺 跡 の 層 序



● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院 「小千谷」平成 6 年発行）

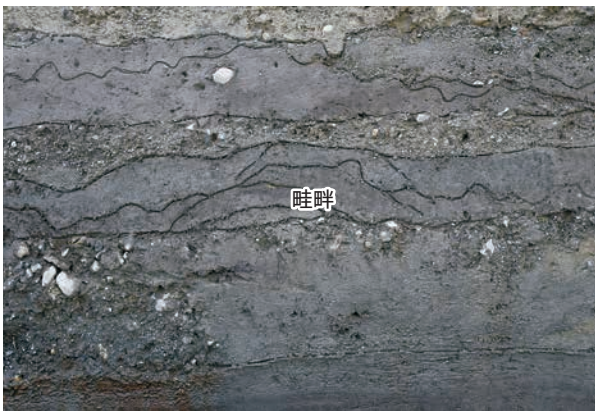
などを確認した。最も深い 12 層水田の一部は、出土遺物から古代に遡る可能性がある。北区で検出した水田区画は、繰り返しの耕作により判然としない部分が多いが、北西から南方向に弧状に伸びる畦畔は比較的明瞭で、畦畔西側には、これに付随する 12 層検出の杭列を、その東側には北西から南東方向にほぼ直線的に伸びる 13 層検出の杭列を検出した。12 層検出の杭列は約 70cm 間隔で 10 本、13 層検出の杭列は約 50cm 間隔で 64 本見つかっている。また、畦畔に沿った溝状の窪みが一部で確認でき、畦畔の盛り上げに伴う掘削痕の可能性が高い。

■ **遺　物**　　上層では、近世以降の陶磁器片がわずかに出土した。下層では、土師器、須恵器、土師質土器、珠洲焼や曲物底板、杭などの木製品が出土した。遺物は、コンテナ 1 箱にも満たないほど少量であった。杭は 84 本検出し、そのほとんどが、13 層で見つかった杭列（巻頭写真）のものである。杭の長さは、60cm に満たないものから、120cm 以上のものとばらつくが、70cm ～ 1m のものが全体の約半数を占めた。ほとんどが割材を使用している。杭の上端は、腐食して欠失したものが大半で、打ち込む際の叩いた痕跡は確認できない。

■ **まとめ**　　調査の結果、工田遺跡では上層、下層をとおして水田を検出した。上層と下層の畦畔の方向に統一性は見られない。上・下層とも、水田耕作土が何枚にも堆積しているが、同じ区画を踏襲して、繰り返し耕作していた様子が窺える。遺跡周辺の景観や水田の形成された過程など、近隣の水田跡の調査成果を踏まえて、さらに明らかにしていくことが今後の課題となる。　　（株式会社大石組　松井奈緒子）

● 南区下層畦畔（南東から）

● 北区下層水田畦畔（北から）



● 北区下層（12 層）畦畔断面（東から）

● 北区畦畔脇の杭（南から）

4　整理・報告作業

平成30年度の整理作業は、当該年度に発掘調査を行った5遺跡(6地点)を含む9遺跡について実施した。このうち、事業団職員が埋文センターで作業したものは、石船戸東遺跡Ⅱ、山口遺跡Ⅱ、余川中道遺跡Ⅲ、土橋北遺跡である。上野遺跡Ⅰ、丘江遺跡Ⅳは平成29年度に編集作業までほぼ終了していたため、最終確認を経て印刷・刊行した。整理作業は、図版作成や編集作業のデジタル化（編集業者委託）とPDFデータからの印刷で作業の効率化を図っている。

石船戸東遺跡Ⅱ（阿賀野市）

国道49号阿賀野バイパス建設に伴い、平成27・28年度に発掘調査を実施した。下層は縄文時代の遺物包含地で、土器集中か所などを検出した。上層は中世の集落で、掘立柱建物・井戸・火葬関連遺構などを検出した。特に丸木舟を転用した井戸側は注目される。調査の当該年度中に整理作業が進められていたことから、平成30年度は遺物図版作成、原稿執筆などを含めた編集作業を中心に行い、報告書を刊行した。

山口遺跡Ⅱ（阿賀野市）

国道49号阿賀野バイパス建設に伴い、平成22・25年度に発掘調査を実施した。古代と中世の集落で、掘立柱建物・井戸・土坑・溝などを検出した。古代の掘立柱建物は総柱建物が多く、また県内唯一の唐三彩が出土している。調査の当該年度中に遺構の図版作成、遺物の接合・実測、原稿執筆など部分的に整理作業が進められていた。平成30年度はそれを引き継ぐ形で、遺構図版の作成、遺物の追加実測・写真撮影・図版作成、原稿執筆・編集などを行った。

余川中道遺跡Ⅲ（南魚沼市）

国道17号六日町バイパス建設に伴い、平成26・29年度に発掘調査を実施した。中世・古代・古墳時代の遺跡で、中世の居住域、古代の水田、古墳時代の水田および祭祀関連の場を検出した。古墳時代の遺物が多く、土器を中心に石製模造品や勾玉などが出土した。平成30年度はその多量に出土した遺物の接合・復元・実測、一部は写真撮影などを行い、デジタルトレースも行った。

土橋北遺跡（阿賀野市）

県営湛水防除事業（安野川地区）に伴い、平成29年度に発掘調査を実施した。上層が縄文時代晩期後葉の集落で、埋設土器や土坑などを検出した。下層は縄文時代後期前葉の遺物包含地であった。平成30年度は遺構図版の作成、遺物の接合・復元・実測・図版作成、原稿執筆・編集などを行い、報告書を刊行した。

5　平成30年度刊行報告書

シリーズNo. 発行日	報告書名 所在市町村	体裁 頁数	事業名	調査 年度	種別	主な 時代	主な遺構	主な遺物	担当者
第279集 H31.03.29	石船戸東遺跡 阿賀野市	A4版 313頁	国交省 国道49号 阿賀野 BP	H27 ・ H28	遺物包含地	縄文	炭化物・焼土集中3 土器集中6	縄文土器・石器	小野本敦 加藤　学
					遺物包含地	古代		土師器・須恵器	
					集落	中世	掘立柱建物11・井戸8・土坑126・溝75・道路状遺構1・火葬関連遺構22・凹地状遺構3	土師質土器・珠洲焼・瓷器系陶器・瀬戸美濃焼・青磁・白磁・木製品（曲物）・石製品（砥石・石臼）・金属製品（鉄鏃・鎹）・丸木舟転用井戸側・鍛冶・鋳造関連（椀形鍛冶滓）	
第281集 H31.03.01	上野遺跡Ⅰ 第1次調査 村上市	A4版 83頁	国交省 日沿道	H29	遺物包含地	縄文		縄文土器・土製品、石器・石製品	小野本敦
					遺物包含地	中・ 近世	墓2	銭貨	
第282集 H31.02.28	土橋北遺跡 阿賀野市	A4版 123頁	新潟県 県営湛水 防除	H29	遺物包含地	縄文	自然流路1・埋設土器4・土器集中26・土坑10・炭化物集中1	縄文土器・石器	佐藤友子 高橋　保
第283集 H31.03.29	丘江遺跡Ⅳ 第5次調査 柏崎市	A4版 76頁	国交省 国道8号 柏崎BP	H29	生産遺跡	弥生～ 室町	井戸1・土坑1・溝36・畔35	弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・珠洲焼・白磁・青磁・唐津焼・瀬戸美濃焼	春日真実

6 保 存 処 理

平成 30 年度は、担当職員 1 名と嘱託員 5 名で木製品・金属製品の保存処理を行った。また、校外学習で埋蔵文化財センターを見学する小・中学生や春と秋のイベント日に保存処理室を案内して、木製品や金属製品が保存処理を必要とする理由や作業工程、仕上がり品を説明した。下駄や古銭などの保存処理が済んだ遺物を実際に手に取り質感を感じてもらい、昔の人々の生活に興味持ってもらえるように工夫した。

■ 木製品の洗浄・台帳作成・写真撮影

木製品は、保存処理を開始するまで木製品保管棟の水槽で水漬け保管している。木製品の保存処理は報告書掲載遺物を優先して刊行順に行っている。その手順は遺物表面の泥汚れを水洗いし、長い間地中に埋もれ木製品に染み込んだ鉄分などの汚れを落とすために薬液に漬けて脱鉄処理を行う。その後、「保存処理台帳」に登録し、処理前の状態を写真に記録してから、トレハロース含浸処理を始める。

■ 木製品の保存処理

木製品の保存処理では、乾燥による木材の収縮・変形を防止し、木材の強化を図るため、木材中の水分を空気中でも安定な糖アルコール（トレハロース）に置換し、結晶化させる「トレハロース含浸法」を採用している。これまでに長さ約 50cm、厚さ 5cm 以下の木製品を小型、それ以上を大型に分けて含浸処理を行ってきた。含浸期間は小型木製品では概ね 3 か月、大型木製品で約 8 か月を目途としている。小型品は含浸サイクルが年 3 回と早く、しかも一度に多数の含浸処理が可能なため、これまで溜まっていた木製品の処理は平成 29 年度に終わった。平成 30 年度は大型品を中心にトレハロース含浸を実施した。

大型含浸槽(槽内長さ 3.0m)2 台と小型含浸槽(槽

第 1 表　大型木製品の保存処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
154	三角田	19
156	北沖東	33
157	住吉	127
232	境塚	10
265	山崎Ⅱ	34
275	丘江Ⅰ	11
276	丘江Ⅱ	8
133	青田（木柱試料）	1
合　計		243

第 2 表　大型木製品の表面処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
146	西川内北	32
146	西川内南	68
148	西部Ⅰ	5
149	滝寺古窯跡群	3
153	大坪	6
273	宝田Ⅲ	2
274	丘江Ⅲ	1
278	境塚Ⅲ	94
279	石船戸東	9
合　計		220

第 3 表　漆製品の保存処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
261	六反田南Ⅴ	5
262	境塚Ⅱ	6
263	新町	16
264	宝田Ⅱ	1
265	山崎Ⅱ	8
268	狐宮Ⅲ	3
269	下割Ⅵ	1
269	二反割Ⅱ	1
269	堂古	6
273	宝田Ⅲ	1
274	丘江Ⅲ	14
275	丘江Ⅰ	8
276	丘江Ⅱ	8
278	境塚Ⅲ	5
279	石船戸東	3
未定	丘江Ⅶ	4
合　計		90

第 4 表　小型木製品の表面処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
153	大坪	1
157	住吉	74
252	宝田	9
262	境塚Ⅱ	220
263	新町	170
265	山崎Ⅱ	55
268	狐宮Ⅲ	6
269	下割Ⅵ	4
269	二反割Ⅱ	3
269	堂古	24
271	六反田南Ⅵ	14
273	宝田Ⅲ	31
274	丘江Ⅲ	96
275	丘江Ⅰ	46
276	丘江Ⅱ	30
278	境塚Ⅲ	242
279	石船戸東	200
合　計		1,225

● 丸木舟の展示前表面処理

● 木製品のスチームによる表面処理

内長さ 1.7m）1 台を稼働している。

大型木製品　平成 30 年度から大型含浸槽 3 台を各年 1 サイクル稼働した（第 1 表）。今年度は 8 遺跡、243 点について、トレハロース含浸法により結晶化までの作業を実施した。前年の平成 29 年度に保存処理を実施した大型木製品 9 遺跡、220 点について、スチームクリーナーで木製品の表面に飴状に付いたトレハロースを溶かして拭い、しばらく乾燥させ保存処理を完了した（第 2 表）。このあと遺物ラベルと保存処理台帳を確認して収蔵庫に収納する。

小型木製品　漆製品のみ 16 遺跡 90 点を常温含浸した（第 3 表）。漆製品 133 点の表面処理も行った。平成 29 年度にトレハロース含浸が終了した 17 遺跡、1225 点について、表面に付着したトレハロースをスチームクリーナーで除く表面処理を行い、保存用に収納・整理し保存処理を終了した（第 4 表）。

■ 金属製品の洗浄・台帳作成（第 5 表）

金属製品は、報告書刊行順に遺物表面の泥汚れをエタノールで洗浄し、「保存処理台帳」に登録した後、保存処理まで RP システム（脱酸素剤「RP 剤」と酸素や水を通さないハイバリアフィルム「エスカル」を用いた保管方法）により保管している。作業は 5 遺跡、計 201 点について実施した。

第 5 表 「金属製品保存処理台帳」の作成

報告書 No.	遺跡名	登録点数
273	宝田Ⅲ	10
274	丘江Ⅲ	30
275	丘江Ⅰ	74
276	丘江Ⅱ	55
277	蕪木	32
合　計		201

■ 金属製品の保存処理（第 6 表）

金属製品は、先ずＸ線透過撮影により遺物の構造や劣化状態を確認した後、遺物表面を覆っている錆をグラインダーやメスなどで除去する。その後、腐食を促進する塩化物・硫酸を脱塩処理により取り除き、遺物の強化と腐食促進因子による再汚染防止を目的としたアクリル樹脂の含浸を行った。

平成 30 年度は 10 遺跡の鉄製品 92 点について保存処理が終了し、2 遺跡 8 点は錆落としまで行った。青銅製品は 14 遺跡 147 点の保存処理が終了した。また、平成 29 年度処理終了後の 6 ヶ月の経過観察中に 1 点の鋳造鉄製品が分解したため、再処理を行った。

第 6 表　金属製品の保存処理

【鉄製品】

報告書 No.	遺跡名	処理点数
140	東原町	9
141	北野Ⅱ	13
148	西部Ⅰ	1
150	海道	2
151	蛇谷	15
153	大坪	14
157	住吉	19
158	谷地製鉄跡	1
158	大慶寺御経塚	10
159	用言寺Ⅰ	8
合　計		92

H29 年度処理済要再処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
125	下沖北Ⅰ	1
合　計		1

鉄製品錆落しまで

報告書 No.	遺跡名	処理点数
未定	六日町藤塚Ⅱ	6
未定	坂之上	2
合　計		8

【青銅製品】

報告書 No.	遺跡名	処理点数
141	北野Ⅱ	5
142	道端Ⅲ	2
147	昼塚Ⅰ	6
148	西部Ⅰ	4
151	蛇谷	1
153	大坪	18
154	三角田	14
156	北沖東	2

報告書 No.	遺跡名	処理点数
156	長表東	1
157	住吉	62
158	越巻４号塚	3
158	大慶寺御経塚	12
162	道端Ⅴ	5
163	西部Ⅲ	5
164	砂山中道下	8
合　計		148

● 脱塩処理

● 塩化物・硫酸濃度測定

Ⅲ　普及啓発事業

内　　容	会　　場	期　　日	参加人数	備　　考
少年少女考古学教室	県埋蔵文化財センター	6/17・9/9・11/11・1/27	46	
親子考古学教室	県埋蔵文化財センター	8/14・8/20	93	各日午前・午後の部
花と遺跡のふるさとフェスタ	県埋蔵文化財センター	6/3	583	
まいぶん祭り	県埋蔵文化財センター	10/7	375	
春季企画展「火焔型土器－縄文の息吹－」	県埋蔵文化財センター	4/13 ～ 5/27 5/29 ～ 6/24	5,700	期間中の講演会・花と遺跡のふるさとフェスタも含む
夏季企画展「丸木舟の考古学」	県埋蔵文化財センター	7/6 ～ 12/9	6,836	
巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡－」	魚沼市　目黒邸資料館	5/26 ～ 7/16	476	3 会場合計 2.700 人
	村上市　縄文の里・朝日奥三面歴史交流館	7/21 ～ 9/24	697	
	佐渡市　佐渡市立佐渡博物館	10/6 ～ 12/16	1,527	
	県埋蔵文化財センター	12/21 ～ 3/24	2,891	
速報展「発掘！　新潟の遺跡 2018」	新潟県立図書館 エントランスホール	3/5 ～ 3/17	464	参加人数は配付資料数から算出
新潟県埋蔵文化財センター講演会	県埋蔵文化財センター	4/22 ・ 5/20・6/17・7/22・8/26・9/9・10/21・11/11・12/9・1/27・3/10	664	
第 23 回遺跡発掘報告会 シンポジウム「白河荘の考古学」	新潟県立生涯学習推進センター　ホール	3/10	133	

1　現地説明会

平成 30 年度は、六日町藤塚遺跡、丘江遺跡、上野遺跡の 3 遺跡で現地説明会を開催し、参加者は合計で 305 名であった。説明会では、検出した遺構の公開と説明及び出土遺物と調査の様子を写した写真パネルの展示と説明を行った。

平成 30 年度現地説明会一覧

開催日	遺跡名	事業名	所在地	主な時代	参加人数
7/29（日）	六日町藤塚遺跡	国道 17 号 六日町バイパス	南魚沼市	古墳	159 名
9/9（日）	丘江遺跡Ⅶ	国道 8 号 柏崎バイパス	柏崎市	中世	63 名
10/20（土）	上野遺跡Ⅱ	国道 7 号 朝日熱海道路	村上市	縄文	83 名
					305 名

● 六日町藤塚現地説明会の様子

2　企画展・巡回展

■ 春季企画展「火焔型土器ー縄文の息吹ー」

●「火焔型土器ー縄文の息吹ー」展示の様子

新潟の宝、火焔型土器。約 5,000 年前の縄文時代中期中ごろに発達し、信濃川上・中流域を中心に約 500 年間に盛んに作られたものである。十日町市野首遺跡では火焔型土器 11 点と王冠型土器 8 点が復元され、その数は同市の国宝・笹山遺跡出土品の 17 点を越える。また、東北・北陸など他地域の影響を受けた土器や火焔型土器前後の土器も出土し、火焔型土器に成り立ちを知るうえで重要である。本展では、十日町市指定文化財である野首遺跡の出土品の中から火焔型土器 10 点や王冠型土器 8 点のほか、蛇紋岩製磨製石斧、三脚石器、土偶、石棒、大珠など約 90 点を展示した。前期 4/13 ～ 5/27、後期 5/29 ～ 7/24 の延べ 72 日間に開催した。前期の展示品は東京国立博物館で開催された特別展「縄文－ 1 万年の美と鼓動」に展示する火焔型土器や王冠型土器を中心とし、後期は火焔型土器のなかまである火炎土器を追加した。火焔型土器の圧倒的な迫力と優雅な造形から、縄文の息吹を感じていただく機会となった。観覧者数は 5,700 人である。

■ 秋季企画展「丸木舟の考古学」

●「丸木舟の考古学」展示の様子

かつて潟湖が広がっていた越後平野で、行き交う人々に欠かせなかった丸木舟。平成 27・28（2015・2016）年に阿賀野市石船戸東遺跡の発掘調査で鎌倉時代の大型丸木舟が出土した。切断され、井戸側に再利用されていたその舟は、長さ約 5.5m・幅約 68cm で、本来は長さ 7m ほどの大型のものと推定される。本展は、埋文センターで保存処理が完了したこの丸木舟を初公開し、新潟県内から出土した丸木舟や櫂などの関連資料を集め、丸木舟の歴史を探るものである。丸木舟は石船戸東遺跡のほか、胎内市蔵ノ坪遺跡（胎内市教育委員会蔵）、新発田市曽根遺跡（新発田市教育委員会蔵）、新潟市大沢谷内遺跡・新潟市下前川原遺跡（新潟市文化財センター蔵）、上越市古川遺跡（上越市教育委員会蔵）、上越市木崎山遺跡（埋文センター蔵）の奈良～室町時代のもの 7 点である。このほか、新発田市青田遺跡の櫂 5 点（縄文時代・県指定文化財・埋文センター蔵）、田上町行屋崎遺跡の櫂 2 点（飛鳥時代・県指定文化財・田上町教育委員会蔵）、新潟市的場遺跡の櫂 5 点（奈良～平安時代・県指定文化財・新潟市文化財センター蔵）、加茂市馬越遺跡の櫂 2 点（平安～鎌倉時代・加茂市教育委員会蔵）などの櫂 21 点を展示した。7/6 ～ 12/9 の 157 日間に開催し、観覧者数は 6,836 人である。

■ 巡回展「縄文の造形美ー六反田南遺跡と火焔型土器ー」

●「縄文の造形美ー六反田南遺跡と火焔型土器ー」展示の様子（佐渡市立佐渡博物館）

埋文センター・魚沼市教育委員会・村上市教育委員会・佐渡市教育委員会の主催により開催した。文化庁主催「発掘された日本列島　新発見考古速報　2016」の主役として全国を縦断した糸魚川市六反田南遺跡の造形豊かな縄文土器に、魚沼市、村上市、佐渡市の火焔型土器を加えた縄

文の美を展示した。魚沼市目黒邸資料館（5/26 ～ 7/16）、村上市縄文の里・朝日（7/21 ～ 9/24）、佐渡市立佐渡博物館(10/6 ～ 12/16)、埋文センター(12/21 ～ 3/24)の 4 会場で巡回展示した。観覧者は合計 5,591 人であり、延べ 273 日にわたって展示した。主催 4 者は、展示品の運搬や展示作業及び経費を分担する方法で行い、協力して巡回展を実施した。

■ 常設展示リニューアル

平成 31 年 1 月 25 日に常設展示をリニューアルオープンした。糸魚川市大角地遺跡から出土した世界最古のヒスイ製石器や阿賀野市山口遺跡の県内唯一の唐三彩のほか、新発田市など当センターの選りすぐりの収蔵品約 500 点を展示した。新たにタブレット音声解説機やクイズコーナーを導入し、歴史に親しんでいただける内容になるよう工夫した。

● リニューアルした常設展示

3　遺跡発掘調査報告会・講演会

■ 第 22 回遺跡発掘調査報告会・シンポジウム「白河荘の考古学」

3 月 10 日（日）に新潟県立生涯学習推進センターホールで開催した（主催：新潟県教育委員会・埋文センター）。調査報告は村上市上野遺跡（縄文時代）、南魚沼市六日町藤塚遺跡（古墳時代）、柏崎市丘江遺跡Ⅵ・Ⅶ（弥生時代・中世・近世）である。シンポジウムでは阿賀野バイパス建設に伴い発掘調査を実施した中世遺跡の中から大坪遺跡と境塚遺跡報告した後に、飯村　均氏から「中世奥羽の道とマチ」、新潟県立歴史博物館の前嶋　敏氏から「古文書からみた白河庄」の 2 つの御講演をいただいた。ディスカッションでは大坪遺跡と境塚遺跡の性格などについて議論した。参加人数は 133 人である。

■ 発掘！新潟の遺跡 2018 展

遺跡発掘調査報告会に合わせ、3 月 5 日から 3 月 17 日に新潟県立図書館エントランスホールで開催した。展示遺跡は上記の調査報告 4 遺跡と石船戸東遺跡の合計 5 遺跡である。報告会と同様に速報性の高い内容となり、多くの展示品が初公開となった。配布資料を取られた方は 464 人である。

●「発掘！新潟の遺跡 2018 展」の様子

■ 新潟県埋蔵文化財センター講演会

企画展等に関連して前半は主に縄文時代中期の火焔型土器、後半は丸木舟に関連して各時代の専門家に合わせて 11 回の講演をいただいた。その他、世界遺産登録を目指している佐渡金銀山遺跡、報告書が刊行された六反田南遺跡をテーマにした講演も実施した。県文化行政課と当財団職員のほか外部の講師として、菅沼 亘氏（十日町市博物館）、宮尾 亨氏（新潟県立歴史博物館）、山田昌久氏（首都大学東京）、岡村道雄氏（元文化庁）を招いた。参加者は合計 664 人、各回平均約 60 人である。

4　校外学習等・体験イベント

■ 校外学習・出前授業・職場体験・団体見学

平成 30 年度に校外学習で来館した学校等は 44 校 2,606 人、職場体験は 6 校 38 人（複数日来館含む）、

平成 30 年度 体験学習等参加校一覧

校　外　学　習

No.	月	日	曜日	学 校 名	学習の内容						人数 引率者含む
					展示見学	実物学習	火起こし	勾玉作り	石器体験	仕事見学	
1	4	13	金	新潟市立桜が丘小学校	○	○	○		○	○	92
2		19	木	新潟市立木戸小学校	○	○	○	○		○	76
3		20	金	新潟市立矢代田小学校	○	○	○	○		○	43
4		20	金	新潟市立金津中学校	○					○	6
5		24	火	新潟市立笹山小学校	○	○	○				18
6		26	木	五泉市立村松小学校	○	○	○				66
7		27	金	新潟市立荻川小学校	○	○	○		○	○	117
8		28	土	群馬県立桐生高等学校	○	○				○	16
9	5	1	火	新潟市立新津第一小学校	○	○		○	○	○	76
10		2	水	新潟市立大鷲小学校	○	○	○		○	○	17
11		2	水	新潟市立内野小学校	○	○					136
12		7	月	新潟市立曽野木小学校	○	○	○	○		○	47
13		8	火	新潟市立結小学校	○	○	○	○	○	○	124
14		9	水	新潟市立小林小学校	○	○			○	○	30
15		10	木	五泉市立川東小学校	○	○	○			○	35
16		11	金	新潟市立亀田東小学校	○	○			○	○	136
17		18	金	阿賀町立三川小学校	○	○	○				20
18		24	木	新潟市立新津第一中学校	職場体験						11
19		25	金	新潟市立新津第一中学校	職場体験						11
20	6	11	月	新飯田小学校	○	○		○	○	○	14
21		11	月	新潟市立茨曽根小学校	○	○		○	○	○	17
22		11	月	新潟市立庄瀬小学校	○	○		○	○	○	18
23		12	火	新潟市立小合小学校	○	○	○		○		16
24		21	木	佐渡市立羽茂小学校	○	○		○		○	35
25		22	金	新潟市立阿賀小学校	○	○			○	○	45
26	7	6	金	新潟市立山潟小学校	○	○		○	○	○	67
27		12	木	新潟市立新潟小学校	○	○	○	○	○	○	105
28		26	木	阿賀町つがわ児童クラブ	○	○		○		○	56
29		31	火	阿賀町みかわ児童クラブ	○	○		○		○	65
30	8	22	水	阿賀町ひでや児童クラブ	○	○		○		○	42
31	9	4	火	新潟市立松浜小学校	○	○	○		○	○	98
32		13	木	新潟市立木崎小学校	○	○			○	○	63
33		18	火	新潟市立女池小学校	○	○				○	144
34		19	水	新潟市立立仏小学校	○	○			○	○	55
35		20	木	新潟市立小合東小学校	○	○	○		○	○	14
36		21	金	新潟市立巻南小学校	○	○	○		○	○	65
37		26	水	新潟市立東中野山小学校	○	○			○	○	100
38		27	木	新潟市立小合中学校	職場体験						3
39		28	金	新潟市立小合中学校	職場体験						3
40	10	12	金	新潟市立新津第三小学校	○	○		○	○	○	138
41		16	火	新潟市立新津第二小学校	○	○	○	○			70
42		24	水	新潟市立上所小学校	○	○		○		○	131
43		25	木	燕市立大関小学校	○	○	○		○	○	19
44		30	火	新潟市立升潟小学校	○	○	○		○	○	15
45	11	1	木	新潟市立東曽野木小学校	○	○	○		○	○	27
46		6	火	新潟市立小須戸小学校	○	○	○		○		41
47		9	金	新潟市立和納小学校	○	○		○	○	○	38
48		15	木	新潟市立潟東小学校	○	○	○		○	○	53
49		28	木	新潟市立新津第二中学校	職場体験						5
50		29	金	新潟市立新津第二中学校	職場体験						5
合　計					44	43	22	18	27	37	2,644

出　前　授　業

1	4	16	月	新潟市立豊栄南小学校		○	○				18
2		16	月	新潟市立新関小学校		○	○				16
3		17	火	新潟市立大淵小学校		○	○				15
4		18	水	加茂市立加茂小学校		○		○			43
5		23	月	阿賀野私立神山小学校		○			○		18
6		25	水	新潟市立白根小学校		○			○		93
7		26	木	五泉市立愛宕小学校		○			○		52
8		27	金	新潟市立関屋小学校		○			○		34
9	6	7	木	新潟市清心女子中学校		○					31
10	1	10	木	長岡市立太田中学校		○					9
合　計					0	10	3	1	4	0	329

団体・その他（職員が解説等をした団体）

1	4	26	金	エヌシーイー株式会社	○						4
2	5	17	水	全日本年金組合	○						81
3	6	15	水	新潟トラベル	○						33
4		19	木	十日町市下条地区振興会	○						9
5	7	25	金	ごきんじょネット	○						30
6	8	2	月	新発田市中央公民館	○						20
7	9	18	火	陽光シルバークラブ	○						23
8	10	15	土	曽野木地区公民館	○						25
9		18	水	天理参考館	○						39
10		29	木	姥ヶ山南もみじ会	○						16
11	11	21	日	阿賀野市小教研社会科部	○			○			10
12	12	10	水	中之口ボランティアグループ	○						20
13		13	水	西蒲区巻地区みどりの会	○						25
合　計					13	0	0	1	0	0	335

出前授業として対応した学校は10校329人、合計60校2,973人であった。校外学習は平成29年度に比べ8校180人増加し、佐渡市と阿賀町、そして県外の学校が新たに来館した。校外学習の主な内容は、本物の土器や石器を用いた歴史学習、火起こしなどの体験学習、埋文センターのバックヤードを見学する仕事見学である。仕事見学を行った学校は37校と多く、キャリア教育への関心の高まりを反映しているものと考えられる。職場体験では、土器の接合や拓本、金属製品の洗浄など埋文センターならではの仕事を組み入れた。出前授業は2校144人の減少となったが、平成30年度から休日の対応を取りやめたことによる。団体見学は13団体335人であり、平成29年度と団体数は同じであった。

■ 少年少女考古学教室・親子考古学教室

少年少女考古学教室（全4回）は、学年や地域が違う仲間たちと交流しながら、土器や石器などの遺物に触れ、様々な体験活動をとおして古代の人々の知恵や生活を学ぶことを目的とする。「縄文土器の観察と土器作り体験」、「竪穴住居の観察と木の実採集」、「石器や金属器の観察と石器体験」、「縄文時代の木製品の観察と編み物体験」を行った。遺跡や歴史に興味がある小学4年生～中学3年生が参加し、参加者数は延べ46人、全回参加者は4人であった。

●「少年少女考古学教室」の銭名の観察

親子考古学教室では縄文土器の観察や火起こし・土器作りなどの体験を行い、36組91人が参加した。

■ 花ふるフェスタ・まいぶん祭り

「花と遺跡のふるさと公園」内で実施する「花と遺跡のふるさとフェスタ」(6/3)は、新潟市秋葉区産業振興課・新潟市新津美術館・新潟市弥生の丘展示館・新潟県立植物園・フラワーランドとの協働で実施した。管玉作り、クルミを石で割る体験、クイズでガチャなどを行い、参加者は583人であった。まいぶん祭り(10/7)も同様に協働で実施し、土器でクリを煮る体験や勾玉作りなどを行った。参加者は372人である。

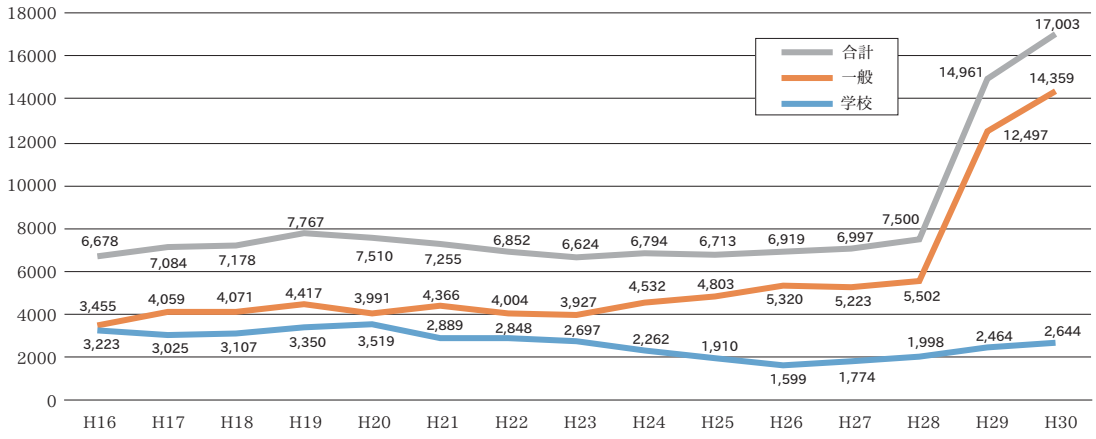
5 入 館 者 数

埋文センターは平成8年10月1日に開館以来、平成30年度末で22年6か月が経過した。埋文センターの常設展示室では、県民に新潟県の歴史に親しんでいただけるように通史と縄文時代の暮らしに主眼を置いた展示を行っている。今年度は大規模な展示替えを行い、平成31年1月25日にリニューアルオープンした。エントランスの展示スペースは企画展示スペースとして活用している。年末年始の6日間を除き連日開館し、見学できるようになっている。埋文センターの所在する新潟市の「花と遺跡のふるさと公園」には、ほかに新潟県立植物園・新潟市新津美術館・新潟市弥生の丘展示館・史跡古津八幡山遺跡、民営の新津フラワーランド（花木鉢等販売）などがあり、年間30万人以上が訪れている。しかし、埋文センターは一番奥まった場所に位置しているため、存在に気付く人は少ない。そこで、正面玄関前に「開館中」などの幟旗を設置して、遠目からでも埋文センターの存在が分かるように工夫している。

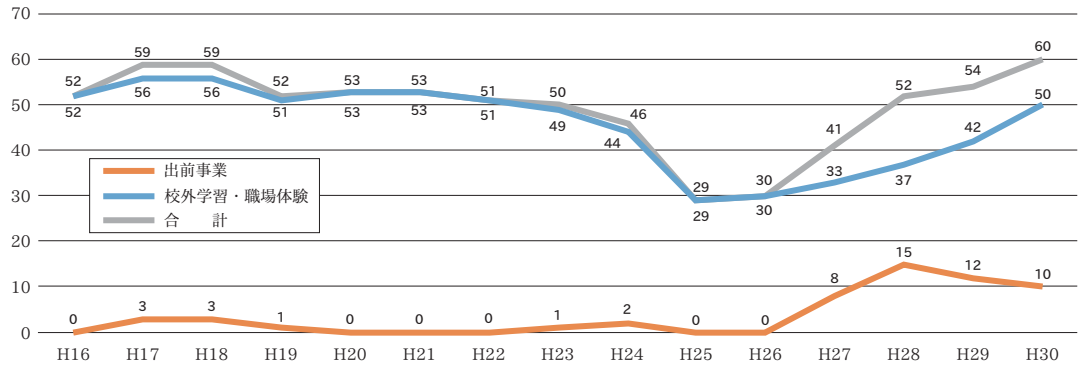
入館者は、数年来7,000人を上回ることを目指してきたが、28年度はついに7,500人となり、ひとまず目標を達成した。平成29年度には埋文センター年間催し物計画のパンフレットを作成・配布するなど広報に努めた結果、開館後初の1万人の大台に乗った。入館者集計方法を従来の来館者による任意の記帳方式から赤外線カウンター方式に変更し、より実態に近い入館者数を把握できるようになったことも急激な増加の一因ではある。30年度は29年度をさらに上回る入館者となった。校外学習・職場体験での利用は全権の小・中学校に年度末と年度初めに案内を送付するなどの広報を行った結果、前年度より8

校増加した。平成 31 年度以降は近隣施設との連携をさらに強めながら幅広い年代層に届く効果的な広報を行い、埋蔵文化財の活用に努めたい。

■ 入館者の推移



■ 体験学習等参加学校数の推移



6 広　　報

■ 年　　報

1 年間の事業概要の総括したもので、8 月 31 日に平成 29 年度版（A4 版 31 頁）を刊行した。平成 29 年度から、印刷物は 30 部のみとし配布を取り止め、当事業団のホームページで公表した。

■ 埋文にいがた

発掘調査速報やイベント情報を中心とする広報紙で、6 月・9 月・12 月・3 月に発行した。印刷部数は 2,200 部である。

■ ホームページ・メールマガジン・Facebook・Twitter

ホームページは事業団の組織・業務の公開のほか、埋文センターで開催される企画展・講演会・体験イベントなどの開催案内、各発掘調査現場での現地説明会の案内、刊行図書等の情報を掲載した。4 月から 2019 年 3 月までのアクセス数は 22,005 件であった。メールマガジン・Facebook・Twitter は講演会や体験イベント等の情報を随時配信した。メールマガジンは登録数 30 件、フォロワー数は Facebook358 件、Twitter389 件である。

■ 年間パンフレット・花と遺跡のふるさと公園パンフレット

埋文センターが行う普及事業を紹介する平成 30 年度年間パンフレット（20,000 部）を作成し、来館者や県内外の博物館等の施設に配付して積極的な広報を展開した。また、埋文センターと新潟県立植物園・

平成 30 年度発行 『埋文にいがた』内容一覧

号	発行年月日	調査・整理遺跡紹介	そ の 他	県内の遺跡・遺物
103	6 月 30 日	平成 30 年度 本発掘調査遺跡・整理遺跡の紹介	埋文コラム「ヒスイ製敲石－糸魚川地域の磨製石斧製作工具－」 丸木舟の考古学の紹介 親子考古学教室を開催します 少年少女考古学教室（第 2 回）を開催します	山元遺跡 （村上市）
104	9 月 30 日	丘江遺跡Ⅶ 山崎遺跡	縄文の造形美－六反田南遺跡と火焔型土器－を開催します 埋文コラム「珠洲焼壺に入った一括出土銭－埋納か備蓄か－」 秋季企画展「砂丘と平野のくらし」	門新遺跡出土品 335 点 （長岡市）
105	12 月 25 日	六日町藤塚遺跡 土橋北遺跡	埋文コラム「吉ヶ沢遺跡 B 地点出土の旧石器時代石器接合資料」 第 23 回遺跡発掘調査報告会 発掘！新潟の遺跡 2018 展を開催します	佐渡貝塚群（堂の貝塚・藤塚貝塚・三宮貝塚） 出土品 125 点 （佐渡市）
106	3 月 25 日	上野遺跡Ⅱ 丘江遺跡Ⅵ	埋文コラム「木崎山遺跡 古瀬戸四耳壺と密教法具」 2019 度春季企画展「佐渡の王－蔵王遺跡－」を開催します 少年少女考古学教室（全 4 回）を開催します	卯ノ木遺跡出土品 98 点 （長岡市）

新潟市文化財センター・新潟市新津美術館・新津フラワーランドが「花と遺跡のふるさと公園」魅力アップ連携協議会を組織して作成した公園の魅力と施設を紹介するパンフレットは、20,000 部を配布し終わり、10,000 部を増刷して配布した。

7 図　　書

主な業務は、新刊図書の受け入れ、図書資料の収集・保存・整理・閲覧などである。当事業団ホームページの「資料室（図書室）情報」に平成 29 年度新規収蔵受付図書一覧と県内市町村別発掘調査報告書等目録（平成 30 年 9 月 30 日現在）を掲載した。図書の受け入れでは、県外の調査組織発行の発掘調査報告書等が、当事業団や新潟県教育委員会、更に新潟県埋蔵文化財センターの 3 者に届くものがある。県教委宛の報告書等も当事業団が管理する県埋蔵文化財センター資料室で管理しているため、報告書の有効活用のためにも、当事業団宛に一本化するように県教委文化行政課を通じて全国の調査組織へ依頼した。蔵書管理ではバーコード利用への対応を引き続き進めている。

（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団資料室　蔵書・利用統計

蔵 書 統 計

年 度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
新 刊 受 入 冊 数	2,436	3,512	3,171	2,702	2,674	2,360	2,450	2,450	2,320	2,361	2,250
累 積 冊 数	53,768	57,280	60,451	63,153	65,827	68,187	70,637	73,087	75,407	77,768	80,018

外 部 利 用 者 数

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
市町村教委埋蔵文化財担当者	42	43	36	41	45	34	36	30	29	19	15
大学生・大学院生・大学関係者	26	45	31	56	24	23	6	13	10	17	8
小 学 生・ 中 学 生・ 高 校 生	0	0	0	21	2	0	0	0	0	0	0
教 員	0	3	3	1	4	1	1	1	0	1	0
埋 文 関 係 民 間 企 業	116	120	47	92	91	49	50	19	33	24	13
その他埋蔵文化財関係者	16	15	26	46	51	71	24	30	21	32	49
一 般	18	12	13	9	16	19	25	25	18	6	16
合 計	218	238	156	266	233	197	142	118	111	99	101

外部利用者コピー機使用件数・枚数

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
コ ピ ー 件 数	192	165	102	168	143	107	90	53	67	49	38
コ ピ ー 枚 数	15,969	16,820	6,553	14,558	7,841	7,473	4,606	1,858	3,002	2,177	2,369

Ⅳ　研修・各種委員会

1　職　員　研　修

1）調 査 課 研 修

埋蔵文化財専門職員としての資質・能力向上を目的に、文化庁・県教育委員会などが実施する各種研修会・講習会に参加した。

①　文化庁　平成 30 年度第 1 回埋蔵文化財担当職員等講習会

（平成 30 年 8 月 29 ～ 31 日　岩手県釜石市・大槌町・山田町・宮古市）：参加者 1 名

講　義 1　「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

講　義 2　「埋蔵文化財行政におけるデジタル技術の導入について

報　告 1　「文化財保護法の改正について」

シンポジウム「埋蔵文化財保護行政における保存と活用－地域社会における文化財の意義－」

趣旨説明

報　告 2　「東日本大震災・平成 28 年熊本地震に伴う取組について」

基調報告 1「阪神・淡路大震災における文化財保護の取組」

基調報告 2「東日本大震災における文化財保護の取組」

報　告 3　「大阪府の埋蔵文化財行政 50 年」

報　告 4　「川崎市における文化財の総合的な把握・活用に向けた取組」

報　告 5　「中津市の取組－自然災害とともにいきる地域の文化財保護－」

現地見学　「鉄の歴史館、復興状況見学、鯨と海の科学館、国史跡崎山貝塚」

②　県教委　市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修

研修①　（平成 30 年 11 月 22 日　埋文センター）：参加者 3 名

講　義 1　「縄文時代石器の整理－分類から報告書作成まで－」

実　習 1　「剝片石器・礫石器の分類」

講　義 2　「縄文時代石器石材について」

実　習 2　「石材の分類」

研修②　（平成 30 年 12 月 14 日　埋文センター）：参加者 3 名

講　義 1　「縄文時代石器の実測について」

実　習 1　「石器の実測」

講　義 2　「石器の写真撮影の留意点」

講　義 3　「観察表・図面図版・写真図版撮影の留意点」

実　習 2　「実測図の講評」

研修③　（平成 30 年 2 月 14・15 日　新潟県庁）：参加者 14 名

文行報告①「新潟県における埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

テーマ 1　「文化財保護法改正にともなう諸課題への対応」

趣旨説明　「法改正内容と県の対応」

地域計画の策定に向けて

「歴史的風致維持向上計画の策定と活動」（村上市教育委員会）

「歴史文化基本構想の策定と活動」（上越市教育委員会）

講　　演　「埋蔵文化財保護行政の現状と課題－求められる埋蔵文化財保護行政のあり方－」

講演・報告「（埋蔵）文化財が担う社会的役割」

学術研究・社会教育等、学校教育、生涯学習、大学生から見た文化財の魅力

討　　論　「文化財保護法改正を契機に意識に変化が必要か」

講　　評

文行報告②「埋蔵文化財保護行政におけるデジタル技術の導入等」

文行報告③「補助金事務について」

文行報告④「平成 30 年度諸問題検討委員会、届出・通知等」

文行報告⑤「国県指定文化財の取り扱い留意点・次年度の県活用事業」

テーマ２「民間調査組織導入の留意点」

趣旨説明　「民間調査組織導入における国県の考え方」

事例報告１「（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団」

事例報告２「阿賀野市教育委員会」

③　全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会

（平成 30 年 10 月 25・26 日　千葉県千葉市）：参加者１名

基調講演　「縄文時代の集落生態系－縄文時代は植物を栽培したのか－」

調査部会　「千葉県の低地遺跡の調査－市川市道免き谷津遺跡の事例を中心として－」

視　　察　特別国史跡加曾利貝塚、千葉県立中央博物館

2　安全衛生委員会

1）委　員　会

調査現場及び作業場の安全点検、労務災害・交通災害の予防や安全衛生教育の企画立案などをテーマに、委員７名で構成する委員会を年間８回開催した。

2）研 修 ・ 講 習

①　救急法講習（平成 30 年 10 月 26 日　センター）

全職員を対象に、救急法の講習を行った。

［内　容］ 救急法「手当の基本」（三角巾を使ったけがの手当等）

［講　師］ 日本赤十字社新潟支部　指導員

②　消防訓練（平成 30 年 11 月２日）

内勤職員を対象に、火災時の行動、非常口・消火設備の配置と使用方法の確認について、消防用設備保守点検委託会社社員の指導を得て、講習・実習・実施訓練を行った。

［内　容］　１　通報訓練

２　避難・誘導訓練

３　非常持ち出し訓練

４　消化器・消火栓使用訓練

［講　師］ 新潟ニッタン（株）　社員

3）巡 視 ・ 点 検

事務作業環境の安全・衛生管理を目的として、委員が発掘調査現場及び埋蔵文化財センター内を巡視・点検し、担当職員や委託業者に対して改善事項等の指示・指導を行った。

① 発掘調査現場（6か所）

平成30年6月26日　丘江遺跡Ⅵ・Ⅶ、六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡

7月 9 日　上野遺跡

10月24日　工田遺跡

② 埋蔵文化財センター

平成30年11月2日　職場内巡視

4）そ の 他

交通規則の遵守・事故防止について、毎月の職員会議などの場で適宜注意を喚起した他、交通事故防止のDVD鑑賞を実施するなど、交通安全（安全運転）の徹底を図った。

V　市町村及び関係機関等への協力

	協　力　内　容	協　力　先	期　　日	担当者
1	新潟市牡丹山諏訪神社古墳の鉄製品の保存処理	新潟大学人文学部 考古学研究室	H30 年 5 月	田海　義正
2	新潟市整理作業検討会	新潟市文化財センター	H30 年 6 月 8 日	沢田　　敦 春日　真実
3	平成 30 年度新潟県市町村等埋蔵文化財諸問題検討会	新潟県教育庁文化行政課	H30 年 7 月 3 日、 10 月 31 日、 平成 31 年 2 月 15 日	小野本　敦
4	史跡長者ケ原遺跡　発掘調査報告書総論編監修	糸魚川市教育委員会	H30 年 7 月 10・11 日、 H31 年 3 月 11・12 日	鈴木　俊成
5	日本学術振興会基盤研究 S「年輪酸素同位体比を用いた日本列島における先史暦年代体系の再構築と気候変動影響評価」の研究協力者	総合地球環境学研究所	H30 年 8 月 18・19 日	荒川　隆史
6	平成 30 年度考古学講座 講演「新潟・青田遺跡と縄文のクリ」	公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター	H30 年 9 月 28 日	荒川　隆史
7	佐渡縄文講演会コーディネーター	佐渡市	H30 年 10 月 21 日	荒川　隆史
8	市民ふるさと歴史研究会 講演「低湿地遺跡の世界」	金沢市	H30 年 11 月 4 日	荒川　隆史
9	縄文時代の埋もれ木の加工痕の鑑定及び調査	秋田県立大学 木材高度加工研究所	H30 年 11 月 22・23 日	荒川　隆史
10	平成 29 年度新潟県市町村等埋蔵文化財 専門職員実務研修①　講師 講義「縄文時代石器の整理－分類から報告書作成まで」 実習「剥片石器・礫石器の分類」	新潟県教育委員会	H30 年 11 月 22 日	鈴木　俊成
11	平成 29 年度新潟県市町村等埋蔵文化財 専門職員実務研修①　講師 講義「縄文時代石器石材について」 実習「石材の分類」	新潟県教育委員会	H30 年 11 月 22 日	沢田　　敦
12	新潟市デジタル図化編集業務事業者評価委員会	新潟市文化財センター	H30 年 12 月 5 日	沢田　　敦
13	平成 29 年度新潟県市町村等埋蔵文化財 専門職員実務研修②　講師 講義「石器の写真撮影の留意点」	新潟県教育委員会	H30 年 12 月 14 日	田海　義正
14	にかほ市郷土市民講座講演 「縄文時代の鳥海山の埋もれ木について」	にかほ市教育委員会	H31 年 1 月 30・31 日	荒川　隆史
15	平成 29 年度新潟県市町村等埋蔵文化財 専門職員実務研修③　講師 事例報告「民間調査組織導入の留意点－新潟県の場合－」	新潟県教育委員会	H31 年 2 月 16 日	沢田　　敦
16	釜蓋遺跡出土石器整理作業指導	上越市教育委員会	H31 年 2 月 20 日	沢田　　敦
17	歴史資料保全コーディネーター講座評価員	東北大学学術資源研究公開センター	H31 年 2 月 27 日～ 3 月 1 日	沢田　　敦

インターンシップ受け入れ

ドイツ・テュービンゲン大学アジア地域文化研究所日本学科の依頼により、留学生 2 名を受け入れた。

内　容：県埋文センターでの遺物整理復元作業体験、周辺の史跡や施設などの見学。

期　間：平成 30 年 8 月 6 日（月）・7 日（火）

公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

平成 30 年度

印刷　2019（令和元）年 9 月 27 日

発行　2019（令和元）年 9 月 30 日

編集発行　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒 956－0845　新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1
TEL　0250－25－3981

印　　刷　有限会社不二出版
TEL　024－932－0111